

### Ⅲ 18歳以上の区民の方が対象

#### ②スポーツ・福祉・保健分野などの調査結果

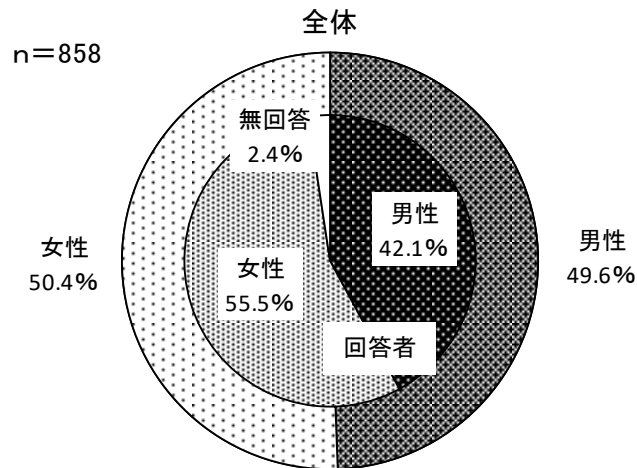


# 1 回答者の属性

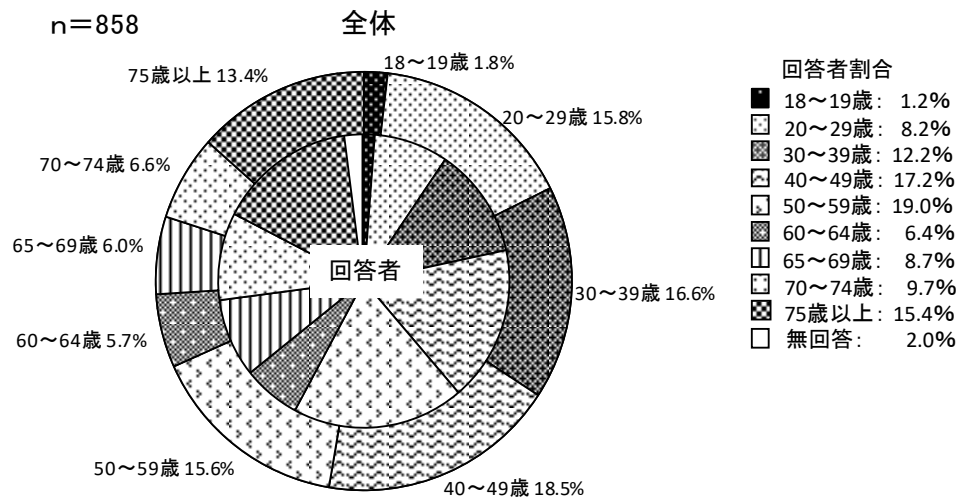
## 【性別】

全体：大田区の18歳以上の人口（n=638,789）※令和2年1月1日

回答者：有効回収数（n=858）

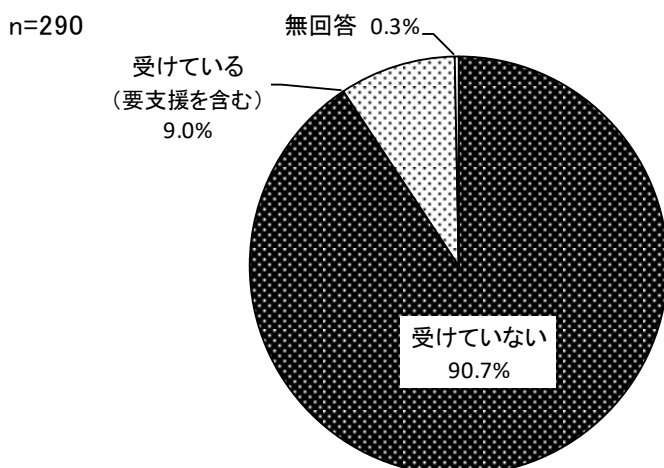


## 【年齢】

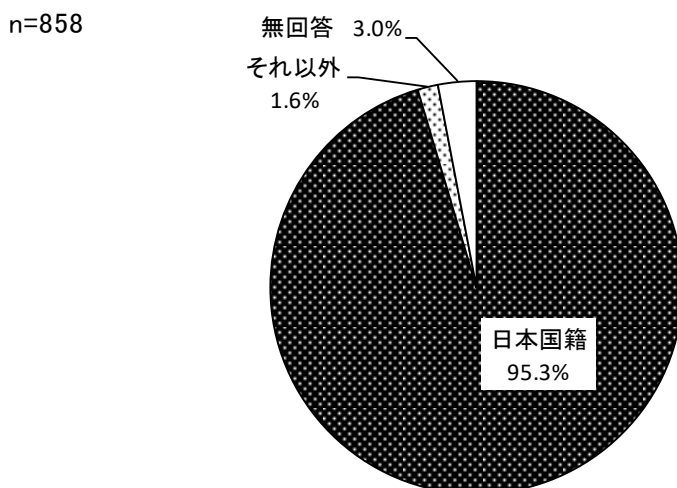


【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和2年1月1日現在版

【介護保険制度の要介護認定を受けているか（65歳以上の方）】



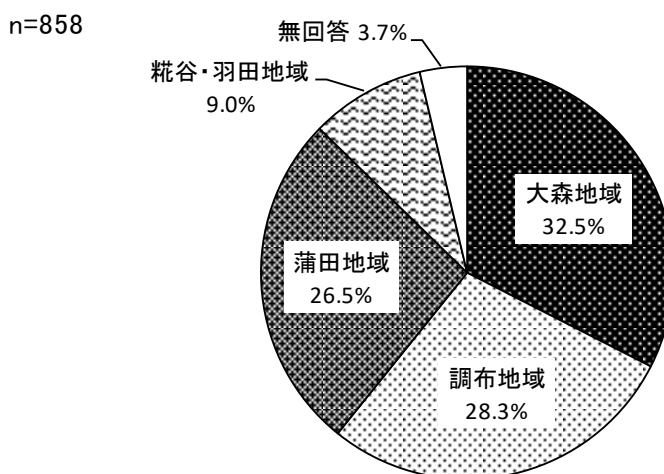
【国籍】



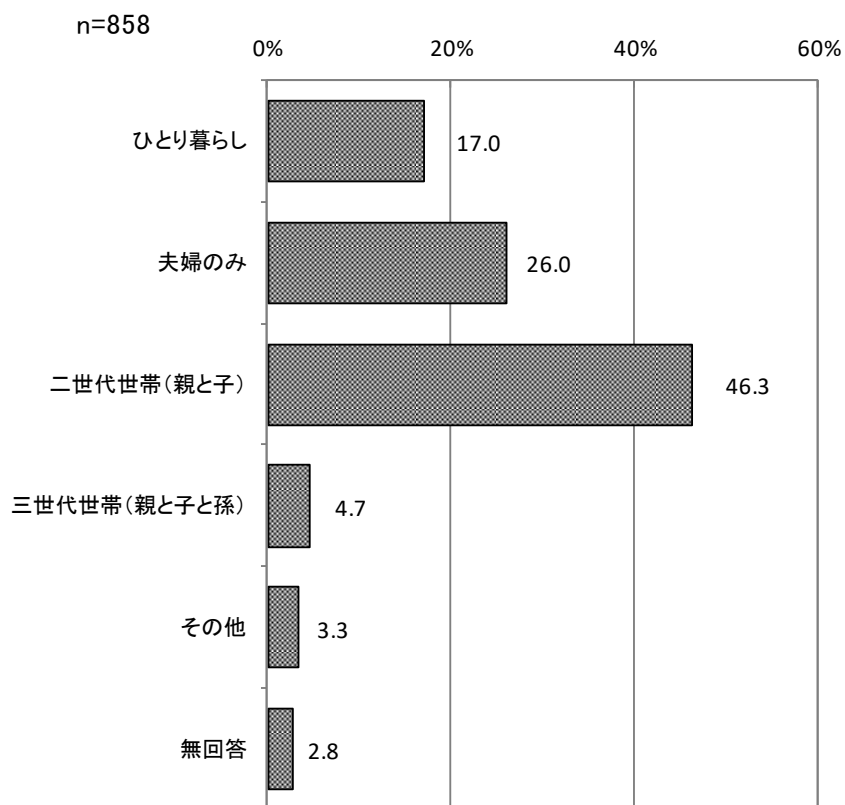
(日本国籍以外)

	中国	フィリピン	韓国	タイ	ブラジル	アメリカ	無回答
人数	5	3	1	1	1	1	2

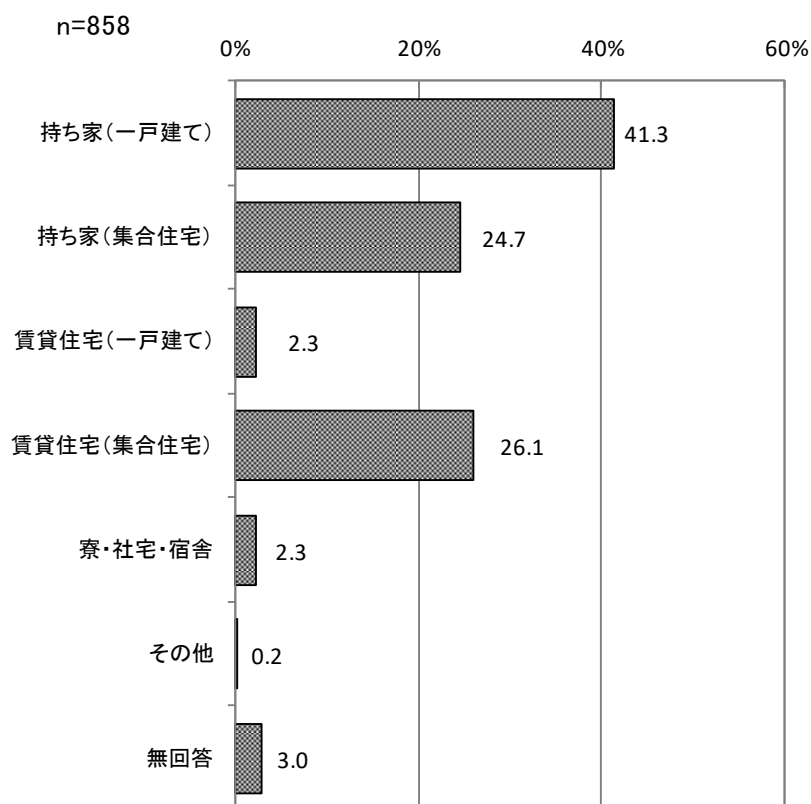
【住まいの地域】



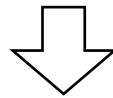
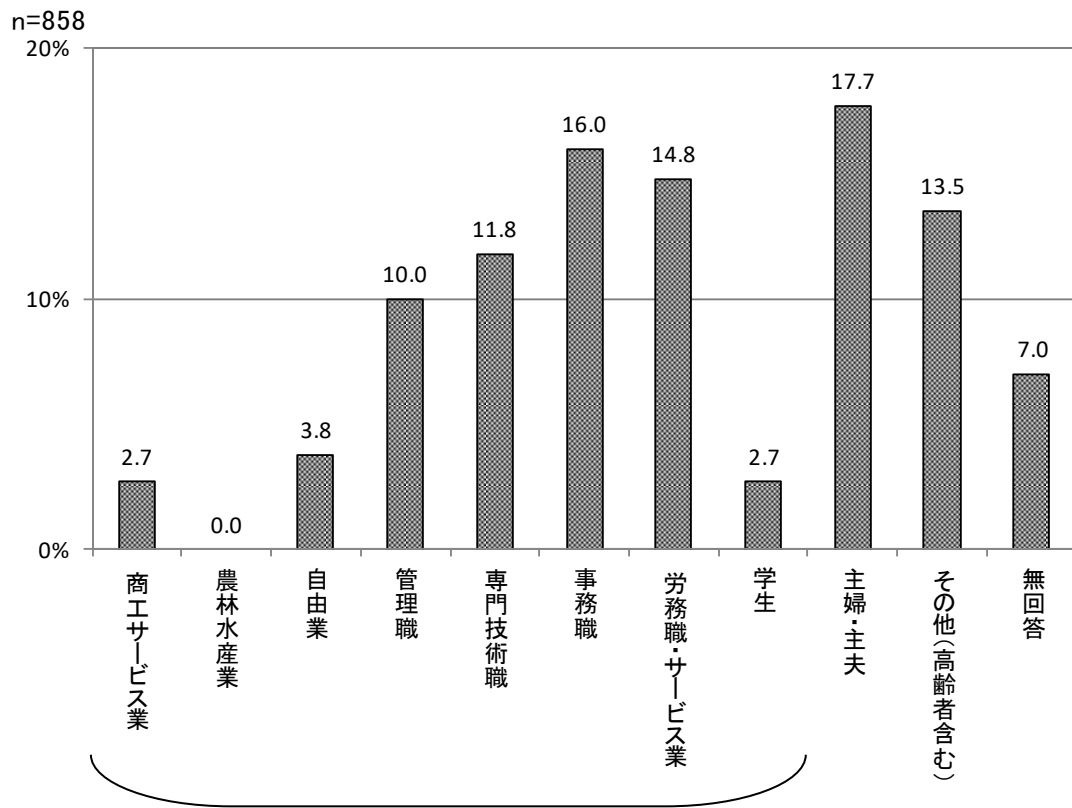
### 【家族構成】



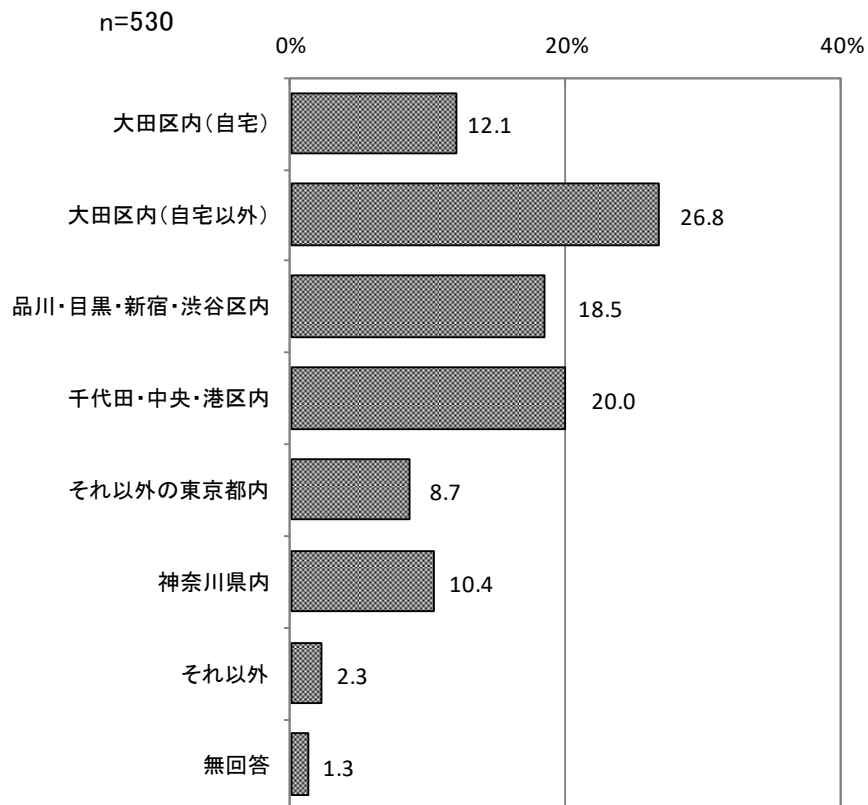
### 【住まいの種類】



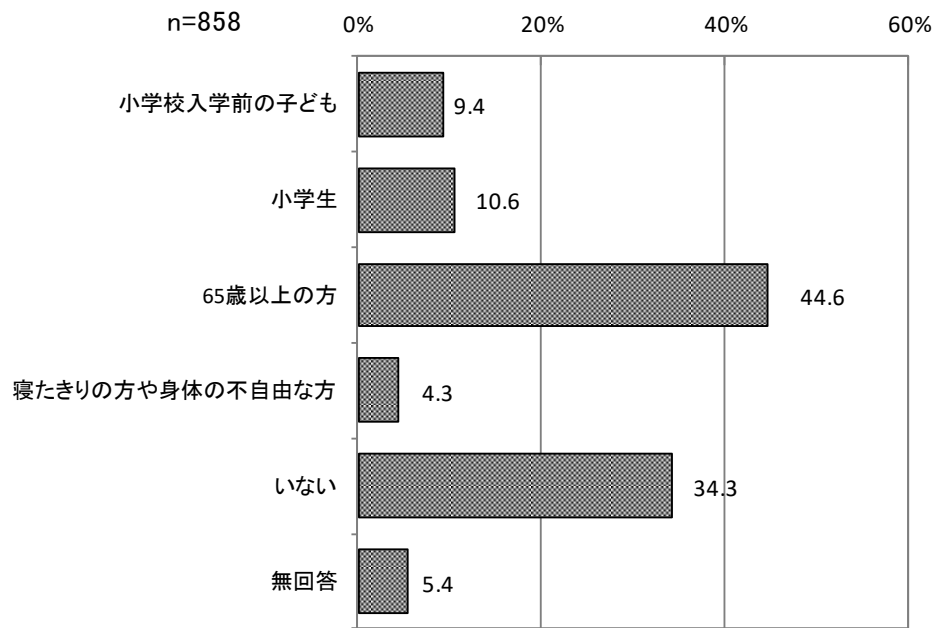
【職業】



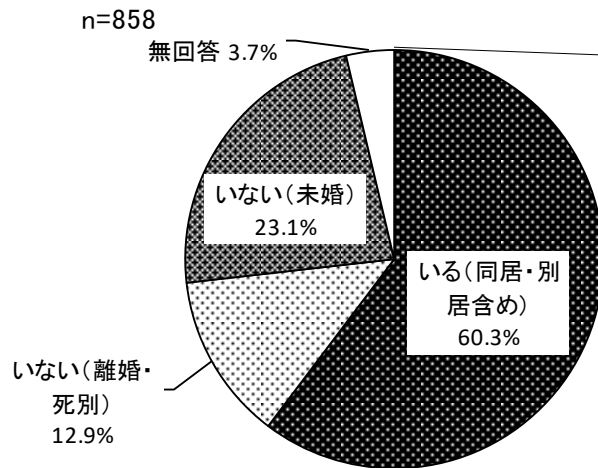
【主な通勤・通学先】



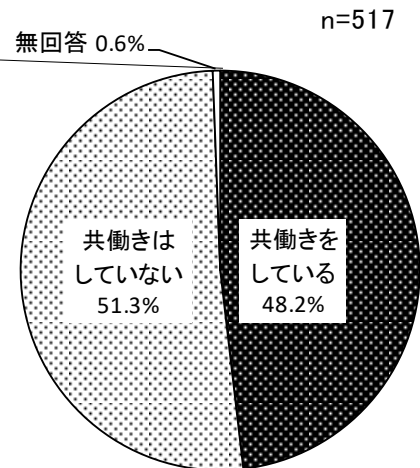
【同居家族】



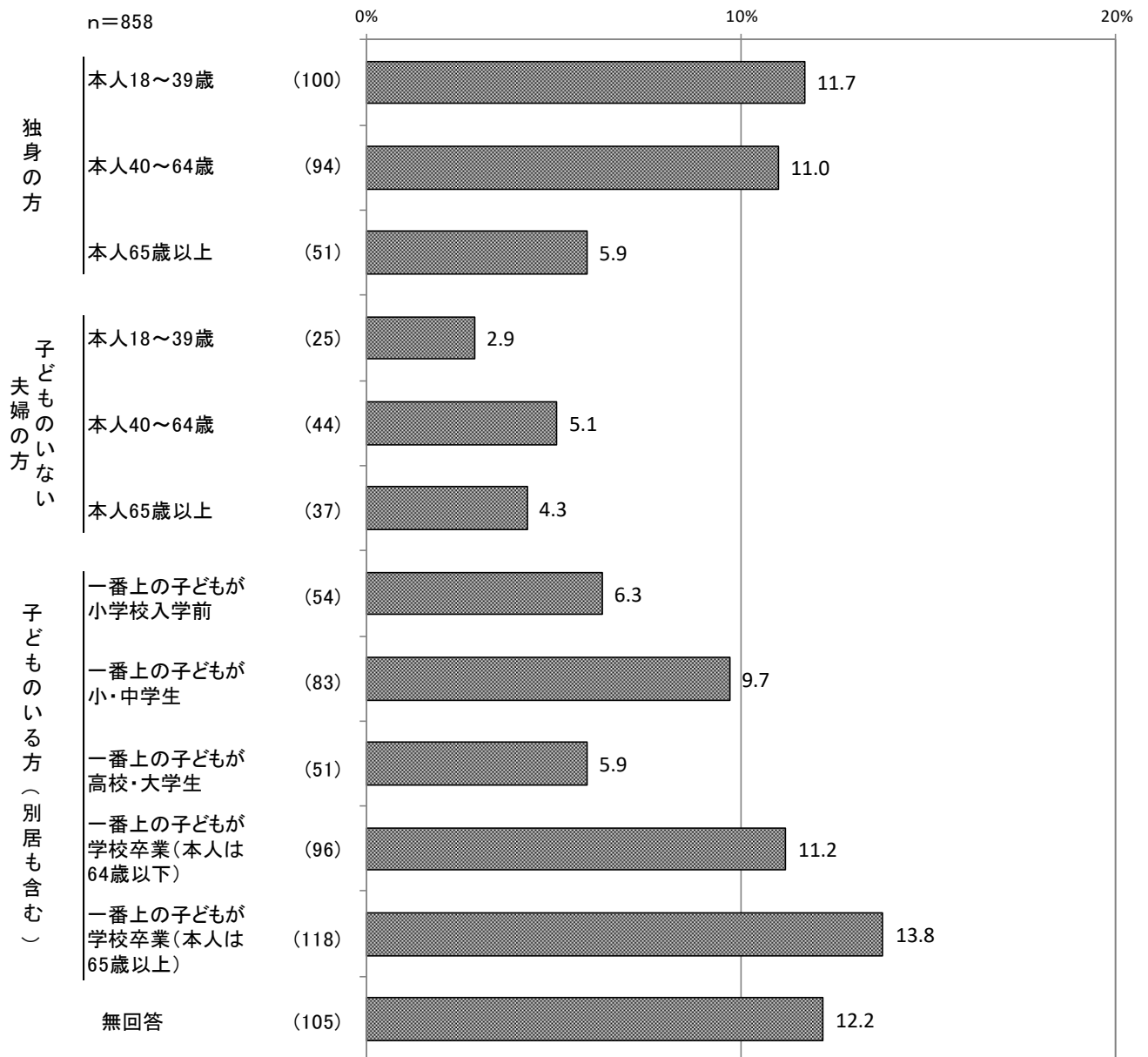
【配偶者の有無】



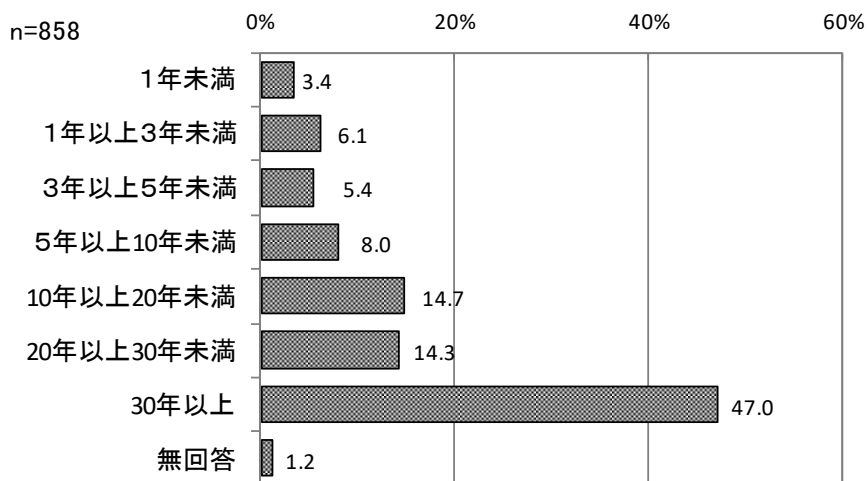
【(配偶者のいる方) 共働きについて】



### 【ご自身のステージ】



### 【大田区にお住まいの期間】





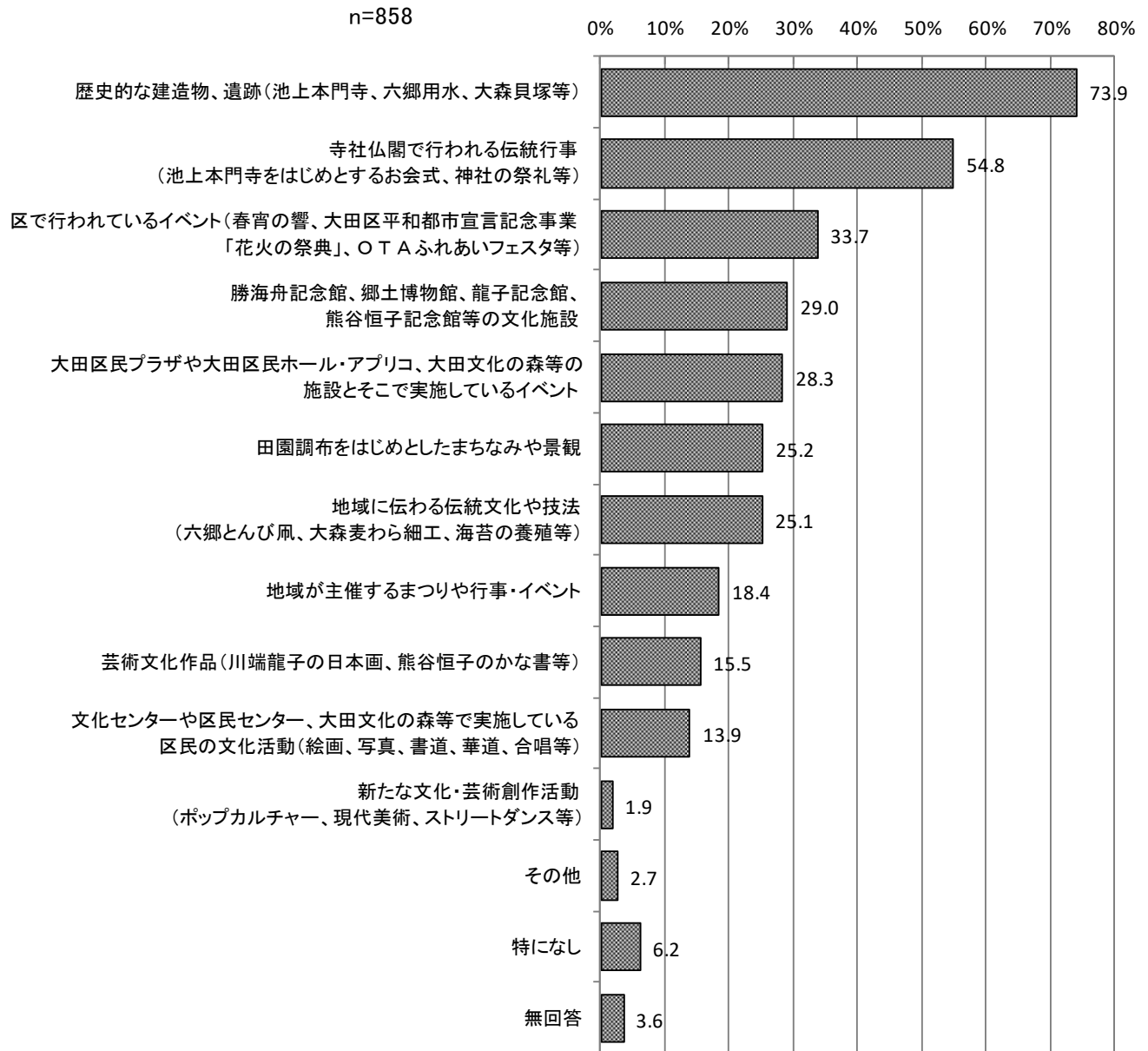
## 2 スポーツ・文化活動について

### (1) 大田区の文化・芸術について

◎ 「歴史的な建造物、遺跡」が7割前半で最も高くなっている

問1 大田区の文化・芸術として思い浮かぶものはどのようなものですか。(〇はいくつでも)

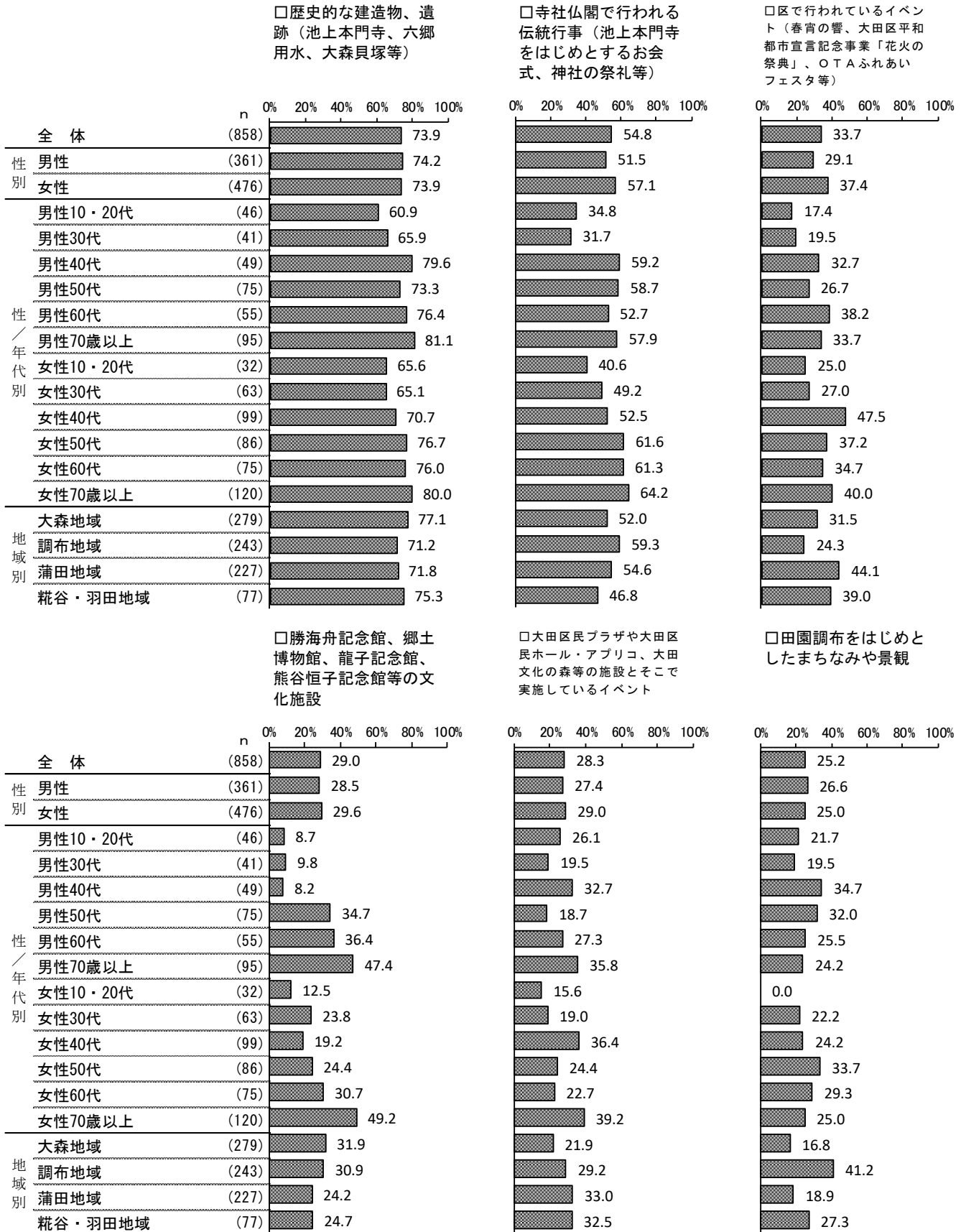
図表2-1 大田区の文化芸術について



大田区の文化・芸術として思い浮かぶものを聞いたところ、「歴史的な建造物、遺跡(池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等)」が73.9%で最も高く、次いで、「寺社仏閣で行われる伝統行事(池上本門寺をはじめとするお会式、神社の祭礼等)」(54.8%)、「区で行われているイベント(春宵の響、大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」、OTAふれあいフェスタ等)」(33.7%)などとなっている。

一方、「特になし」は6.2%となっている。(図表2-1)

図表2-2 大田区の文化芸術について（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



大田区の文化芸術について、上位6項目を性別で見ると「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」では男女ともに7割台となっている。「区で行われているイベント（春宵の響、大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」、OTAふれあいフェスタ等）」では男性（29.1%）、女性（37.4%）と、女性が男性を8.3ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」では男女ともに70歳以上が8割台となっている。「勝海舟記念館、郷土博物館、龍子記念館、熊谷恒子記念館などの文化施設」は、男女ともに70歳以上で4割台となっている。

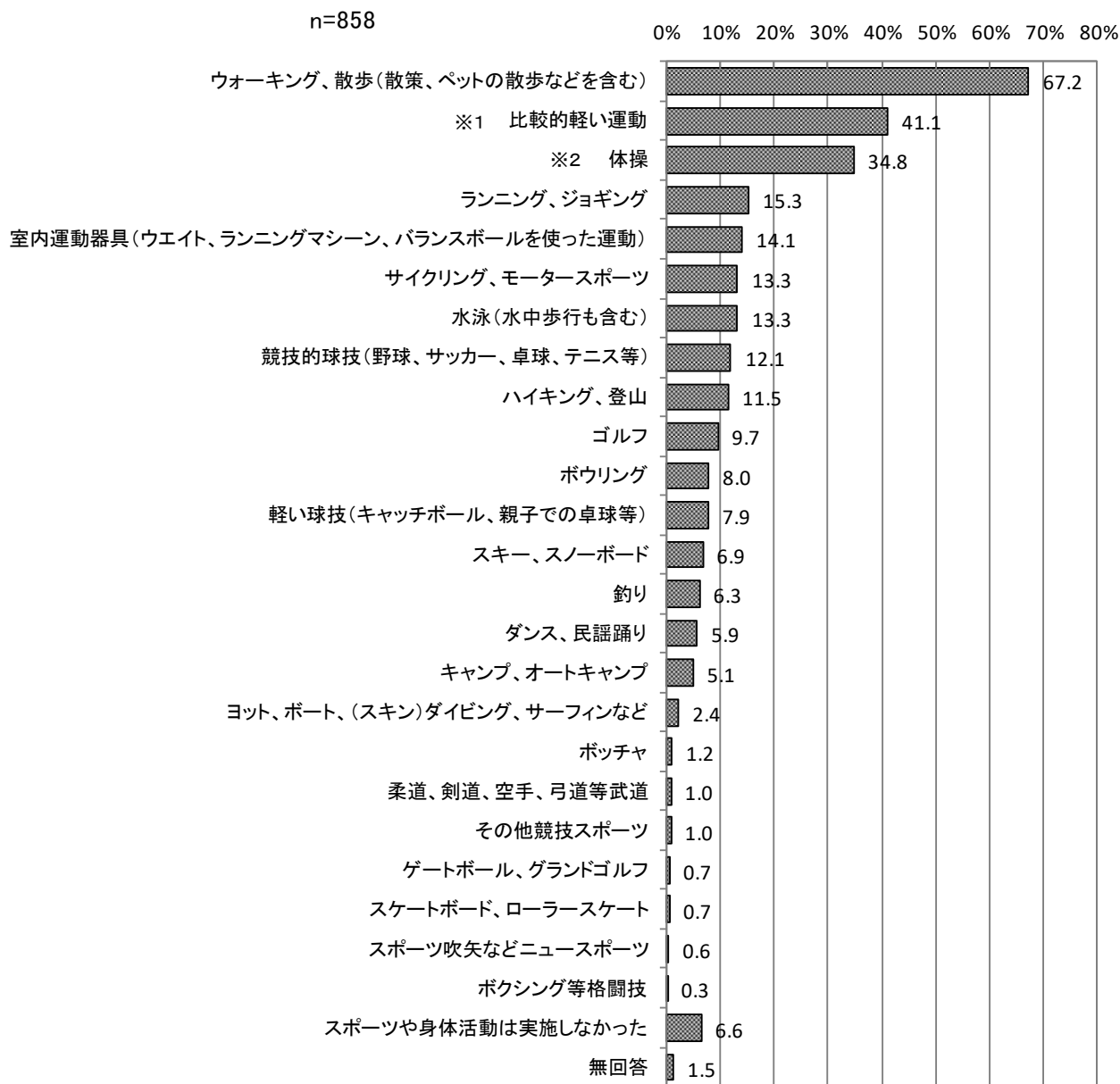
地域別で見ると、「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」では全ての地域で7割台となっている。「田園調布をはじめとしたまちなみや景観」では調布地域が41.2%となっている。（図表2-2）

(2) 最近1年間で行った運動・スポーツ

◎ 「ウォーキング、散歩」が6割後半で最も高くなっている

問2 この中にあなたが、この1年間で行ったスポーツや運動があれば、すべてお選びください。  
(○はいくつでも)

図表2-3 最近1年間で行った運動・スポーツ



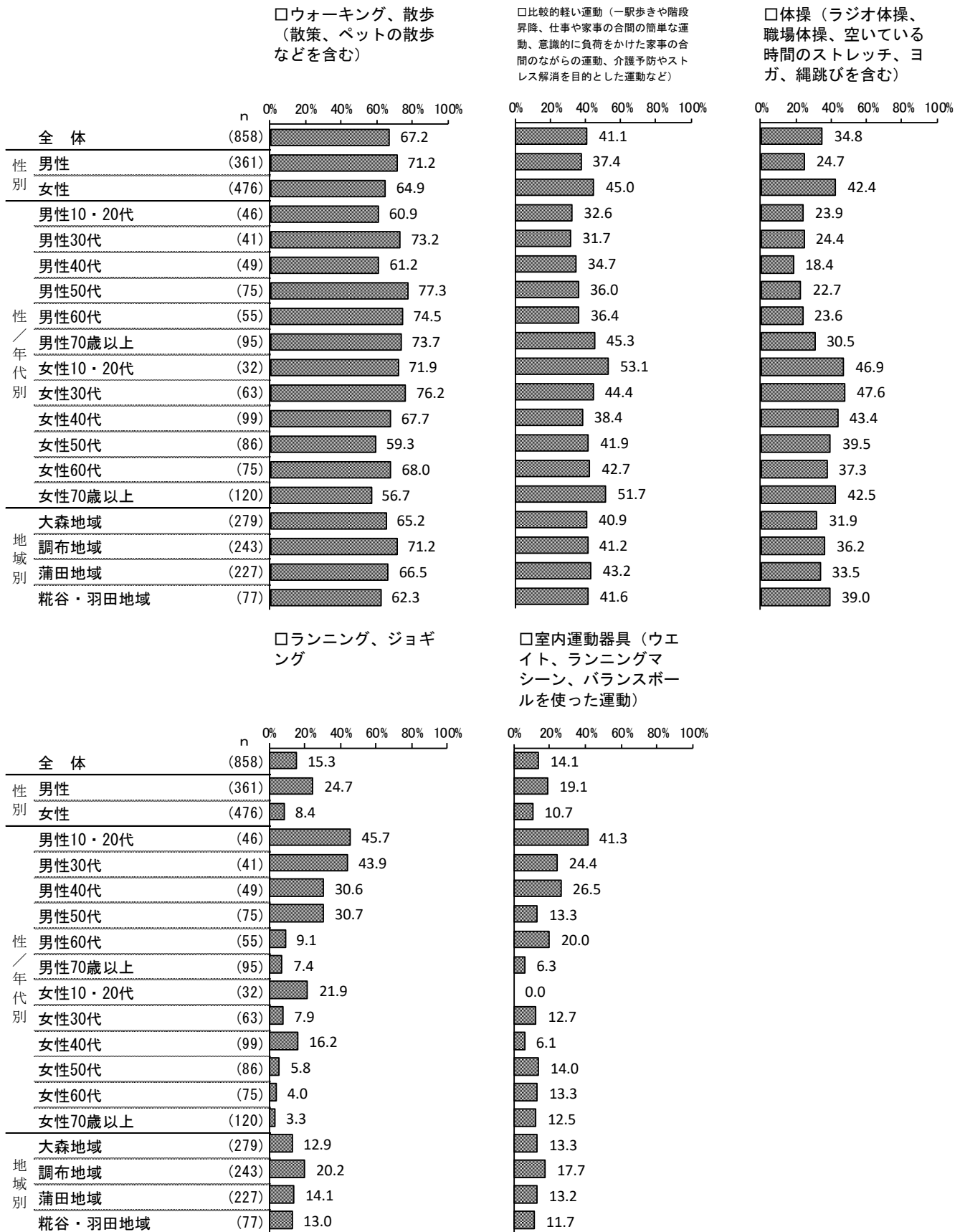
※1 比較的軽い運動(一駅歩きや階段昇降、仕事や家事の合間の簡単な運動、意識的に負荷をかけた家事の合間のながらの運動、介護予防やストレス解消を目的とした運動など)

※2 体操(ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む)

最近1年間で行った運動・スポーツを聞いたところ、「ウォーキング、散歩」が67.2%で最も高く、次いで、「比較的軽い運動」(41.1%)、「体操」(34.8%)などとなっている。

一方、「スポーツや身体活動は実施しなかった」は6.6%となっている。(図表2-3)

図表 2-4 最近 1 年間で行った運動・スポーツ（性別・性／年代別・地域別 上位 5 項目）



最近1年間で行った運動・スポーツについて、上位5項目を性別で見ると、「ウォーキング、散歩」では男女で大きな差異は見られない。「体操」では男性（24.7%）、女性（42.4%）と、女性が男性を17.7ポイント上回っている。「ランニング、ジョギング」では男性（24.7%）、女性（8.4%）と、男性が女性を16.3ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「ウォーキング、散歩」では男女ともに全ての年代で5割以上となっている。「ランニング、ジョギング」では男性10～30代が4割台と高く、全ての年代で男性が女性を上回っている。「室内運動器具」では男性の10・20代が4割台で他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、「ウォーキング、散歩」は全ての地域で6割以上となっている。（図表2-4）

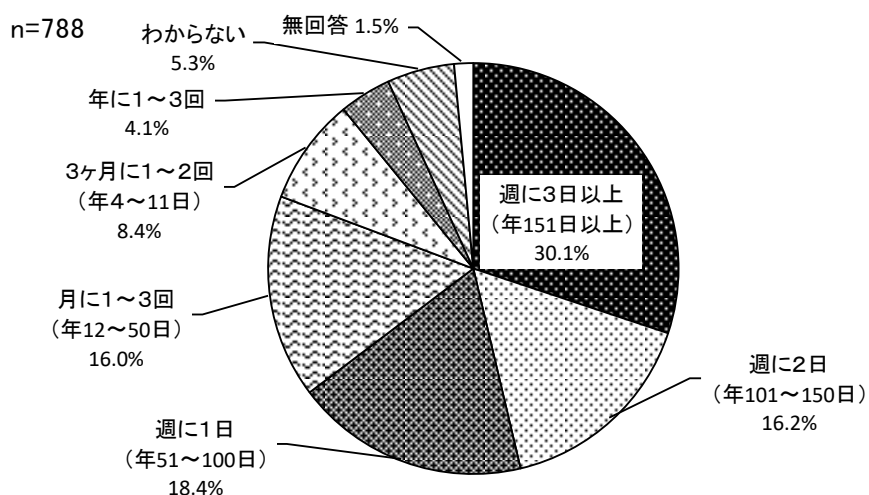
(3) 最近1年間の運動・スポーツの活動頻度

◎ 「週に3日以上（年151日以上）」が約3割で最も高くなっている

【問2で「1」～「24」を回答された方】

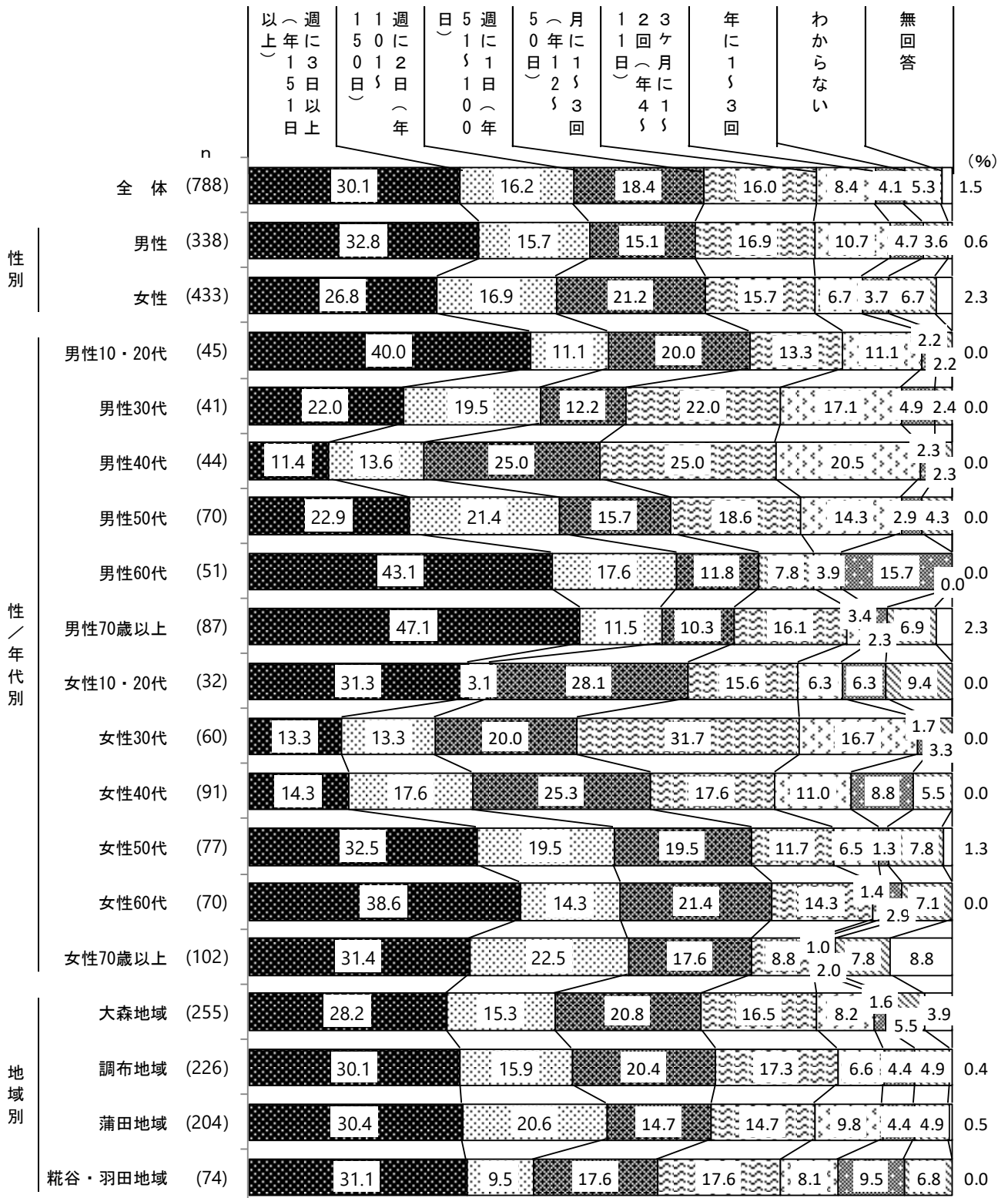
問2-1 この1年間に運動・スポーツ活動を実施した日数を全部合わせると、何日ぐらいになりますか。（○は1つ）

図表2-5 最近1年間の運動・スポーツの活動頻度



最近1年間に運動・スポーツを行った人に活動の頻度を聞いたところ、「週に3日以上（年151日以上）」が30.1%で最も高く、次いで、「週に1日（年51~100日）」（18.4%）、「週に2日（年101~150日）」（16.2%）などとなっている。（図表2-5）

図表2-6 最近1年間の運動・スポーツの活動頻度（性別・性/年代別・地域別）





最近1年間の運動・スポーツの活動頻度について、性別で見ると「週に3日以上（年151日以上）」が男女ともに最も高く、次いで、男性では「月に1～3回（年12～50日）」が16.9%、女性では「週に1日（年51～100日）」が21.2%となっている。

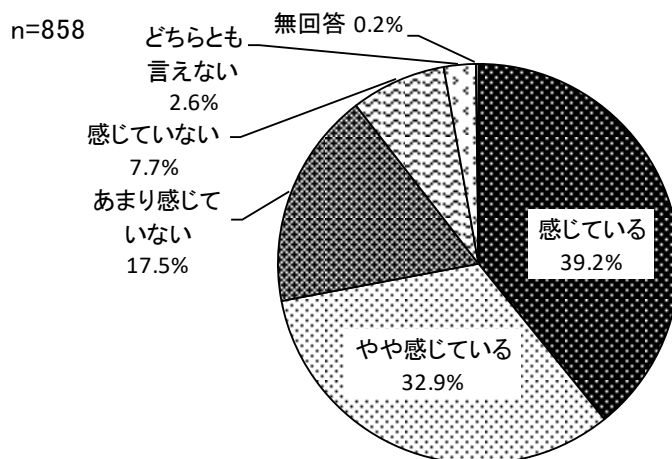
性／年代別で見ると、「週に3日以上（年151日以上）」は男性10・20代、60代、70歳以上で4割台と高くなっている。（図表2－6）

(4) 東京 2020 大会について

◎ 《感じている (合計)》が7割前半となっている

問3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 (以下、東京 2020 大会) が身近になってきたと感じますか。(○は1つ)

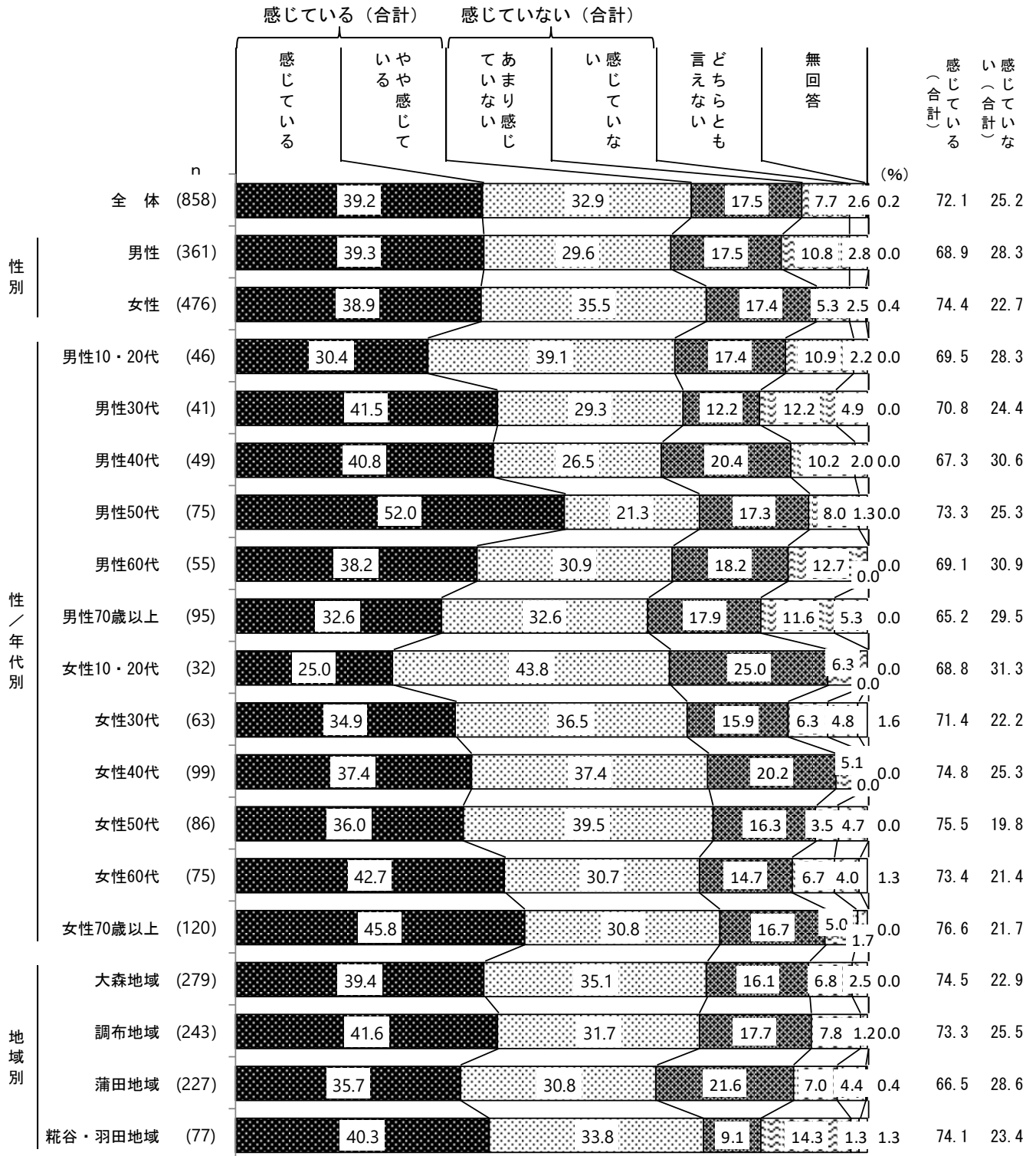
図表 2-7 東京 2020 大会について



東京 2020 大会が身近になってきたと感じるか聞いたところ、「感じている」が 39.2%で最も高くなっている。「やや感じている」(32.9%) と合わせた《感じている (合計)》は 72.1%となっている。

一方、「あまり感じていない」(17.5%) と「感じていない」(7.7%) を合わせた《感じていない (合計)》は 25.2%となっている。(図表 2-7)

図表 2-8 東京 2020 大会について（性別・性／年代別・地域別）



東京 2020 大会について、性別で見ると《感じている (合計)》は男性 (68.9%)、女性 (74.4%) と、女性が男性を 5.5 ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「感じている」は男性 50 代が 52.0% と他の年代より高くなっている。

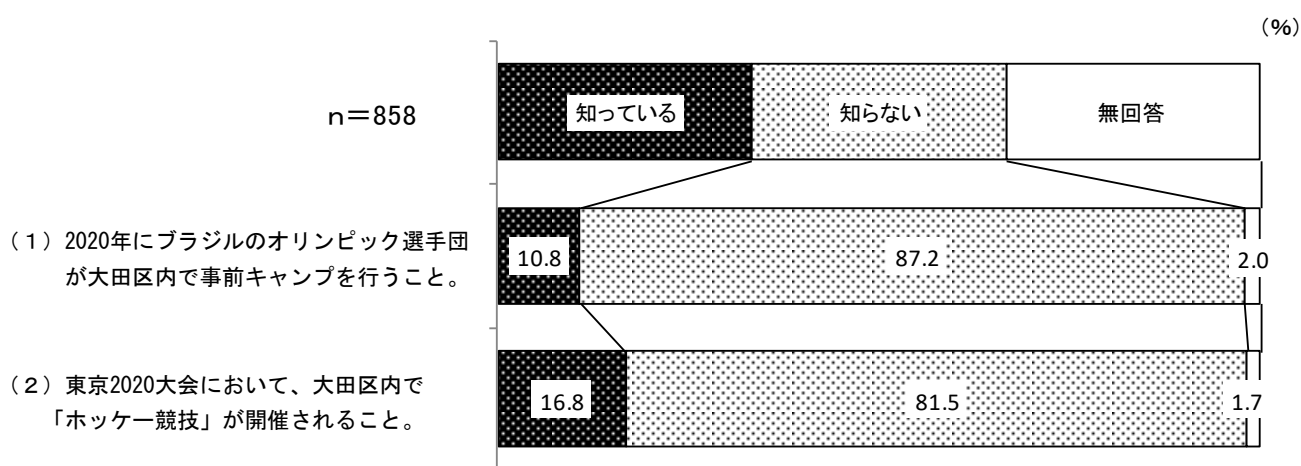
(図表 2-8)

(5) 大田区内での事前キャンプや競技開催の認知度

◎ 「知っている」は1割台となっている

- 問4 東京2020大会について、以下のことをご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)
- (1) 2020年にブラジルのオリンピック選手団が大田区内で事前キャンプを行うこと。
- (2) 東京2020大会において、大田区内で「ホッケー競技」が開催されること。

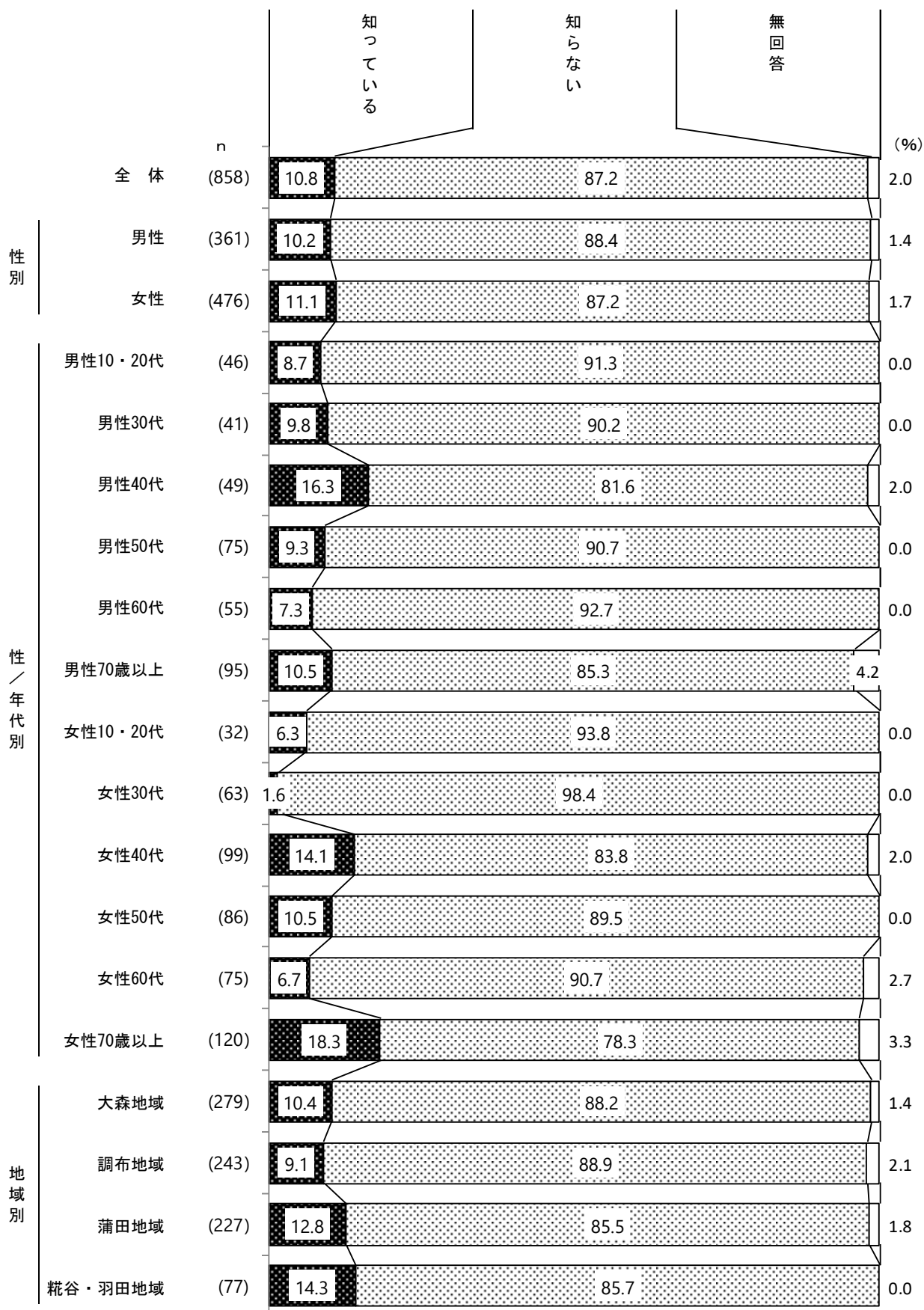
図表2-9 大田区内での事前キャンプや競技開催の認知度



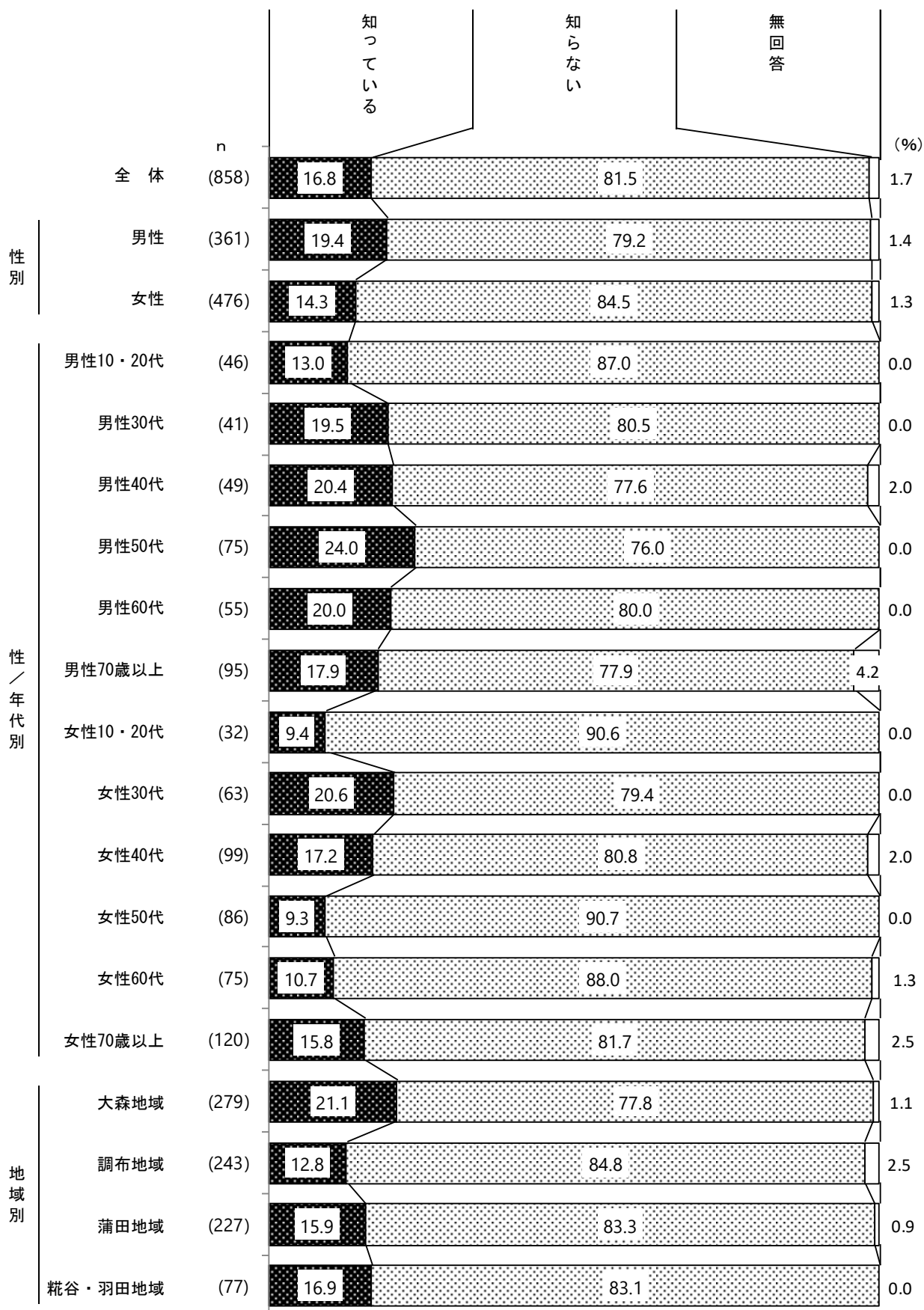
【2020年にブラジルのオリンピック選手団が大田区内で事前キャンプを行うこと】を知っているか聞いたところ、「知っている」は10.8%、「知らない」が87.2%となっている。

【東京2020大会において、大田区内で「ホッケー競技」が開催されること】を知っているか聞いたところ、「知っている」は16.8%、「知らない」が81.5%となっている。(図表2-9)

図表2-10 ブラジルの選手団の事前キャンプの認知度（性別・性／年代別・地域別）



図表 2-11 大田区内で「ホッケー競技」が行われることの認知度（性別・性／年代別・地域別）



【2020年にブラジルのオリンピック選手団が大田区内で事前キャンプを行うこと】の認知度について、性別で見ると大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると、「知っている」は男性40歳で16.3%、女性70歳以上で18.3%と他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、大きな差異は見られなかった。(図表2-10)

【東京2020大会において、大田区内で「ホッケー競技」が開催されること】を知っているかについて、性別で見ると「知っている」は男性(19.4%)、女性(14.3%)と、男性が女性を5.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っている」は男性では50代が24.0%、女性では30代が20.6%で最も高くなっている。

地域別で見ると、「知っている」は大森地域が21.1%となっている。(図表2-11)

### 3 バリアフリー・福祉施策などについて

#### (1) 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度

◎ 《理解している（合計）》はバリアフリーが7割後半、ユニバーサルデザインが約5割

問5 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存知ですか。

(○はそれぞれ1つ)

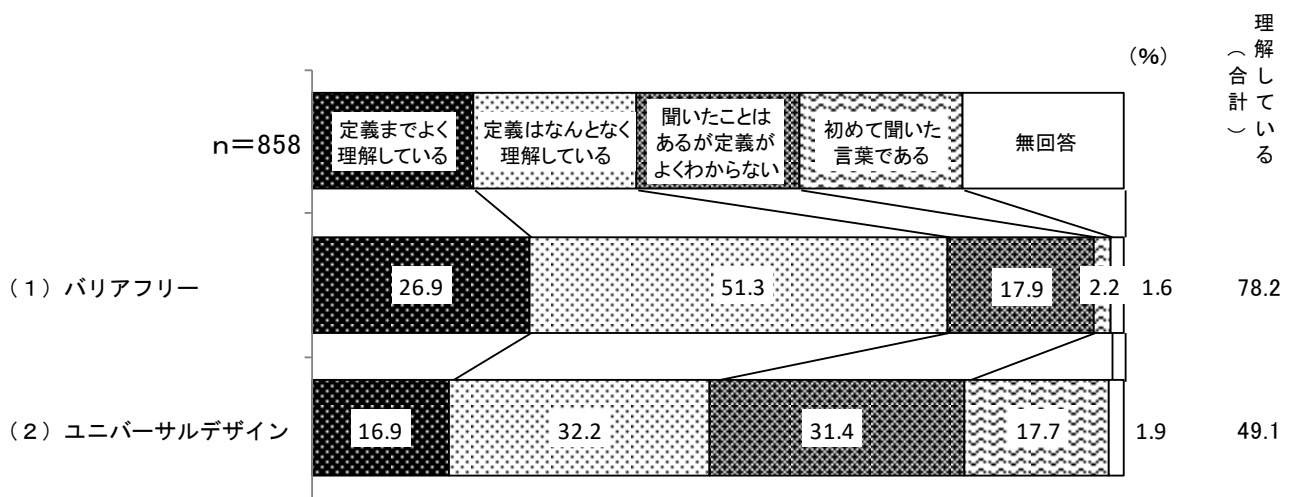
(1) バリアフリー

※高齢者や障がいのある方が生活を営む上での障壁（バリア）を取り除く考え方

(2) ユニバーサルデザイン

※バリアフリーの考え方を一歩進め、年齢、性別、国籍（言語）、個人の能力に関わらず、あらかじめできるだけ多くの人が利用しやすいように生活環境を構築する考え方

図表 3-1 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度



【バリアフリー】について聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」が51.3%で最も高くなっている。「定義までよく理解している」(26.9%)と合わせた《理解している（合計）》は78.2%となっている。

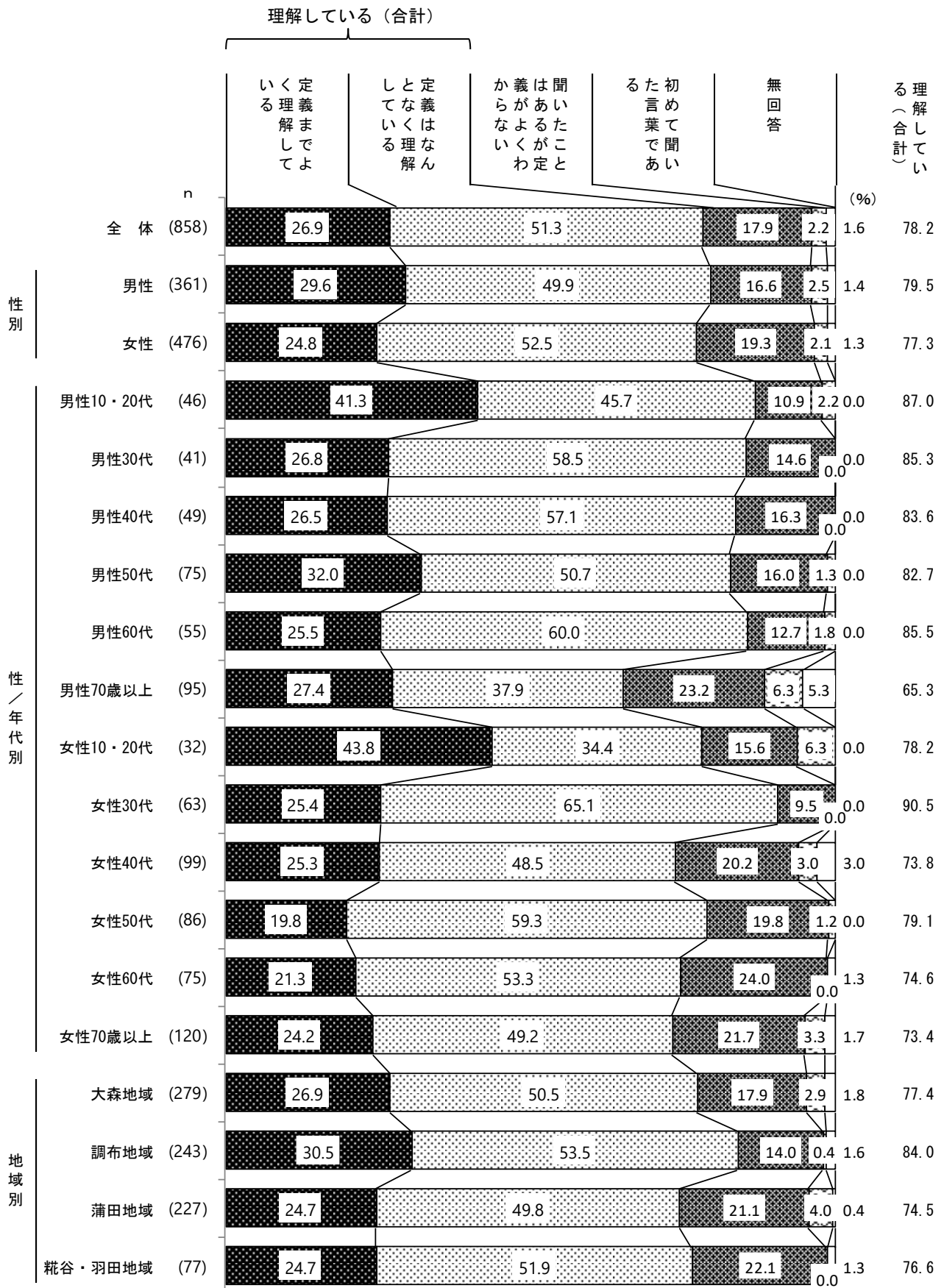
一方、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は17.9%、「初めて聞いた言葉である」は2.2%となっている。

【ユニバーサルデザイン】について聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」が32.2%で最も高くなっている。「定義までよく理解している」(16.9%)と合わせた《理解している（合計）》は49.1%となっている。

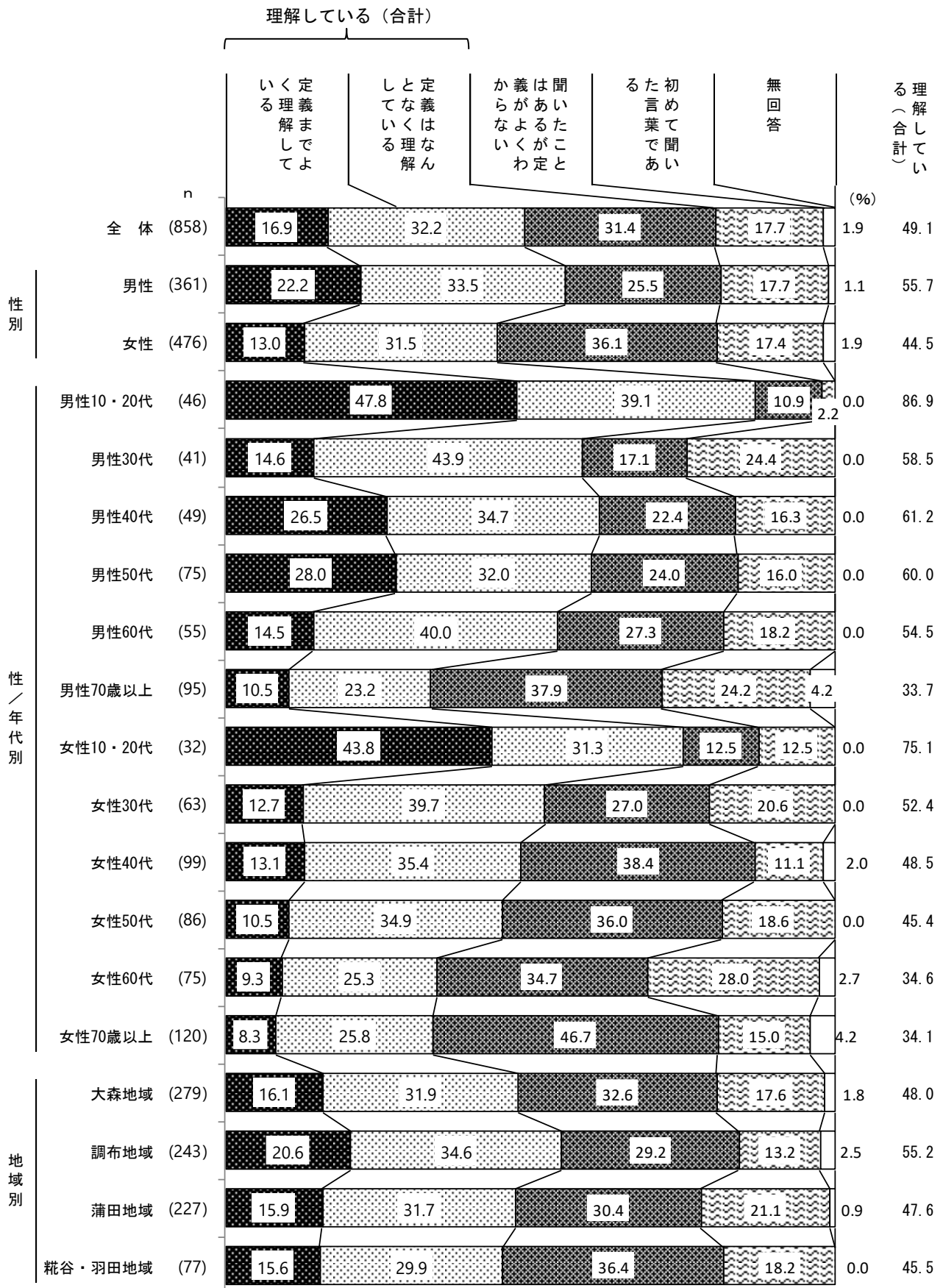
一方、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は31.4%、「初めて聞いた言葉である」は17.7%となっている。(図表3-1)



図表3-2 「バリアフリー」の認知度（性別・性/年代別・地域別）



図表3-3 「ユニバーサルデザイン」の認知度（性別・性/年代別・地域別）



【バリアフリー】の認知度について、性別で見ると男女で大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると、「定義までよく理解している」は男女ともに10・20代が4割台で他の年代より高くなっている。

地域別では、《理解している（合計）》は調布地域が84.0%となっている。（図表3－2）

【ユニバーサルデザイン】の認知度について、性別で見ると「定義までよく理解している」は男性（22.2%）、女性（13.0%）と、男性が女性を9.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「定義までよく理解している」は男女ともに10・20代が4割台と高くなっている。

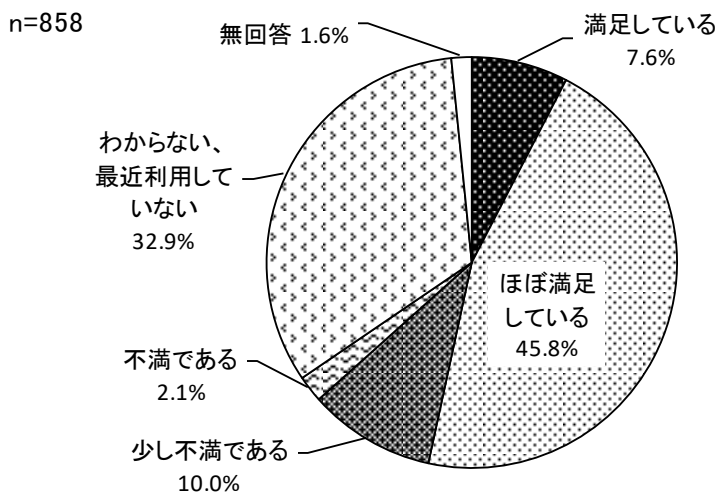
地域別では、《理解している（合計）》は調布地域が55.2%となっている。（図表3－3）

(2) 大田区役所内の案内表示について

◎ 「ほぼ満足している」が4割半ばとなっている

問6 大田区役所（本庁舎、地域庁舎、特別出張所など）を最近利用したときの、案内表示のわかりやすさについて、あなたのご意見に最も近いのはどれですか。（○は1つ）

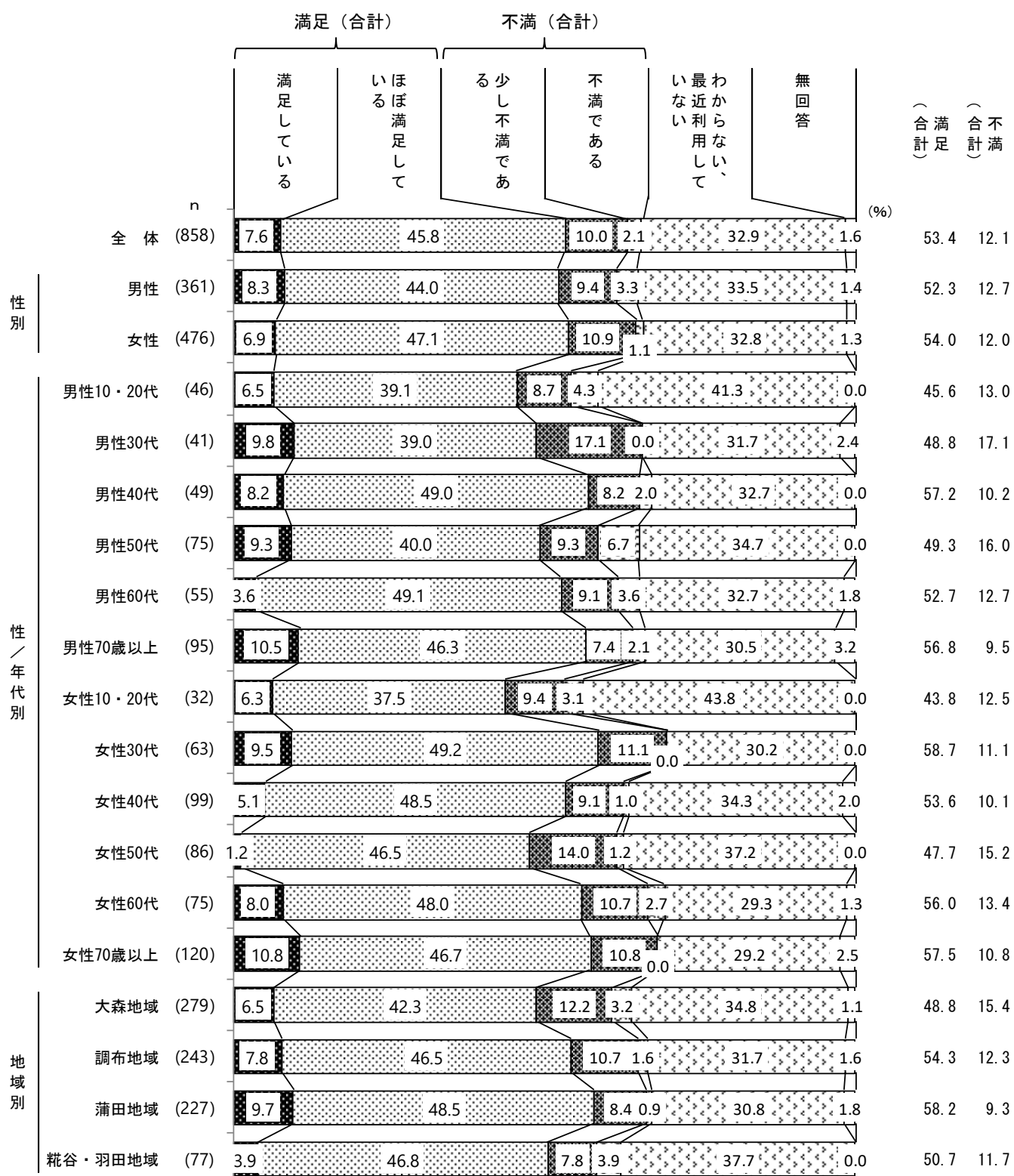
図表3-4 大田区役所内の案内表示について



大田区役所内の案内表示のわかりやすさについて聞いたところ、「ほぼ満足している」が45.8%で最も高くなっている。「満足している」(7.6%)と合わせた《満足(合計)》は53.4%となっている。

一方、「少し不満である」(10.0%)と「不満である」(2.1%)を合わせた《不満(合計)》は12.1%となっている。(図表3-4)

図表 3-5 大田区役所内の案内表示について（性別・性／年代別・地域別）



大田区役所内の案内表示のわかりやすさについて、性別で見ると大きな差異は見られない。

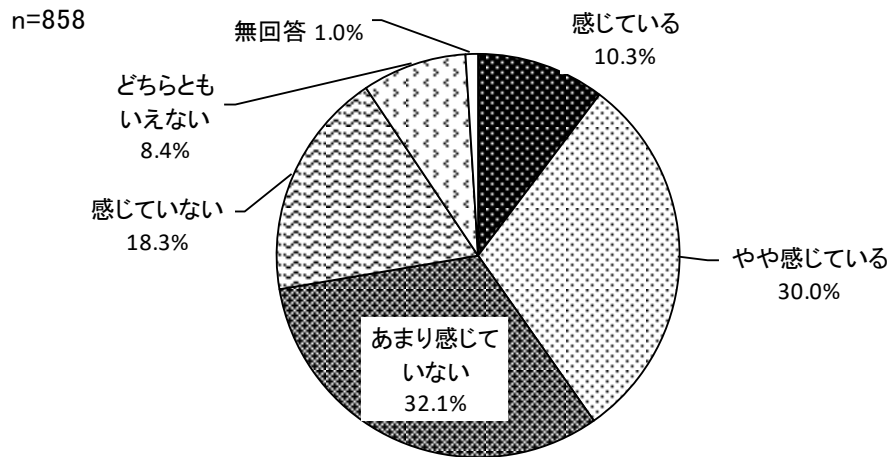
性／年代別で見ると、《満足（合計）》は男性 40 代、60 代、70 歳以上、女性 30 代、40 代、60 代、70 歳以上で 5 割台となっている。（図表 3-5）

(3) 駅周辺のバリアフリー化について

◎ 「あまり感じていない」が3割前半で最も高くなっている

問7 駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じていますか。(○は1つ)

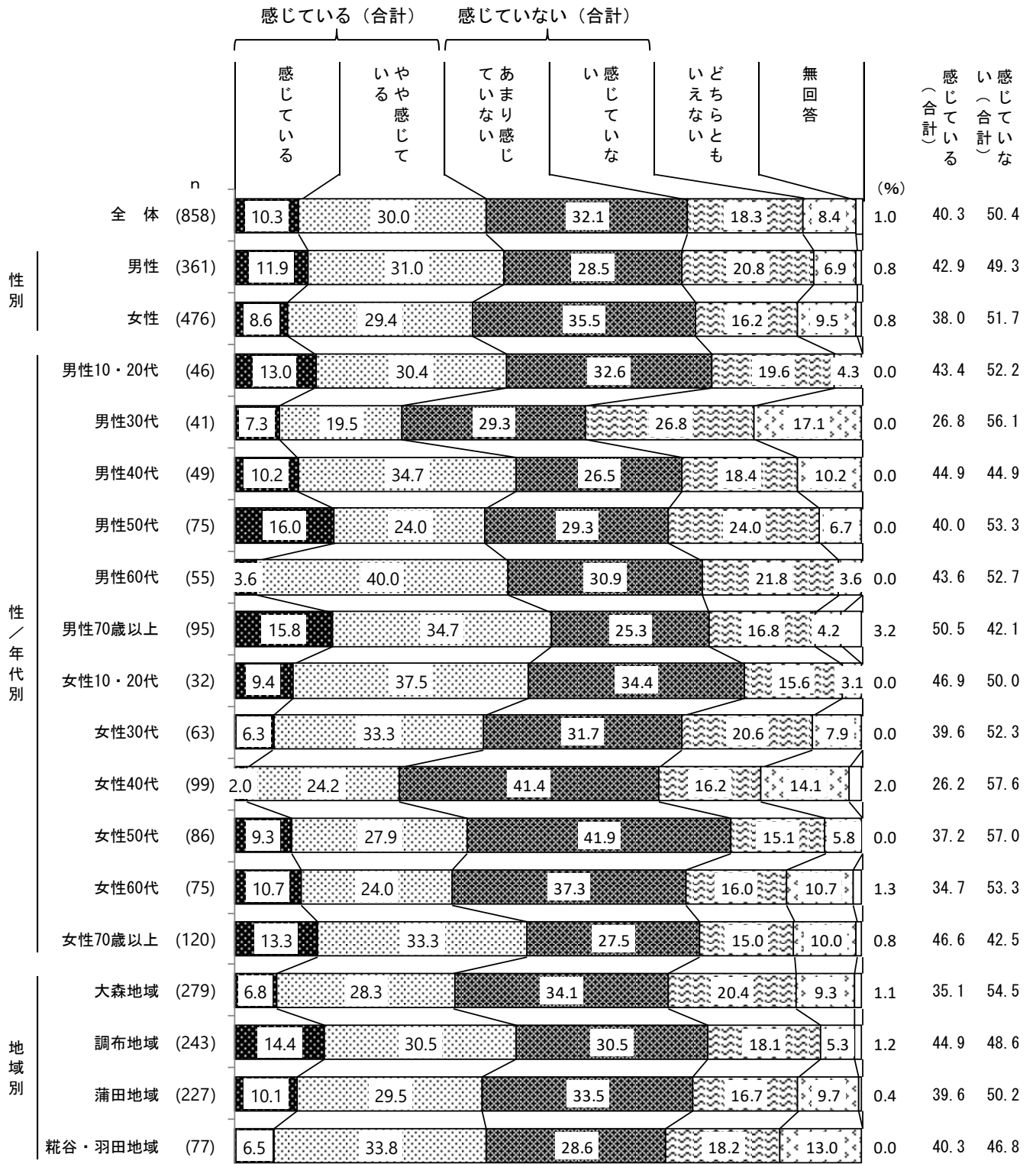
図表3-6 駅周辺のバリアフリー化について



駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じるか聞いたところ、「感じている」(10.3%)と「やや感じている」(30.0%)を合わせた《感じている(合計)》は40.3%となっている。

一方、「あまり感じていない」が32.1%と最も高く、「感じていない」(18.3%)と合わせた《感じていない(合計)》は50.4%となっている。(図表3-6)

図表3-7 駅周辺のバリアフリー化について（性別・性／年代別・地域別）



駅周辺のバリアフリーが進んだと感じるかについて、性別でみると男女で大きな差異は見られない。

性／年代別でみると、《感じている（合計）》は男性30代が26.8%、女性40代が26.2%と他の年代より低くなっている。

地域別では、《感じている（合計）》は調布地域が44.9%となっている。（図表3－7）



(4) 福祉施策等の認知度

◎ 「内容まで知っている」が成年後見制度で約3割

問8 以下の(1)～(5)の制度、計画、施設などをご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

(1) 障害者差別解消法

※障がいのある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながらともに生きる社会づくりを目指して、平成28年4月に施行された法律

(2) 成年後見制度

※認知症、知的障がいなどによって判断能力が不十分な方を法的に保護・支援する制度

(3) おおた子どもの生活応援プラン

※大田区の子どもの貧困対策に関する計画

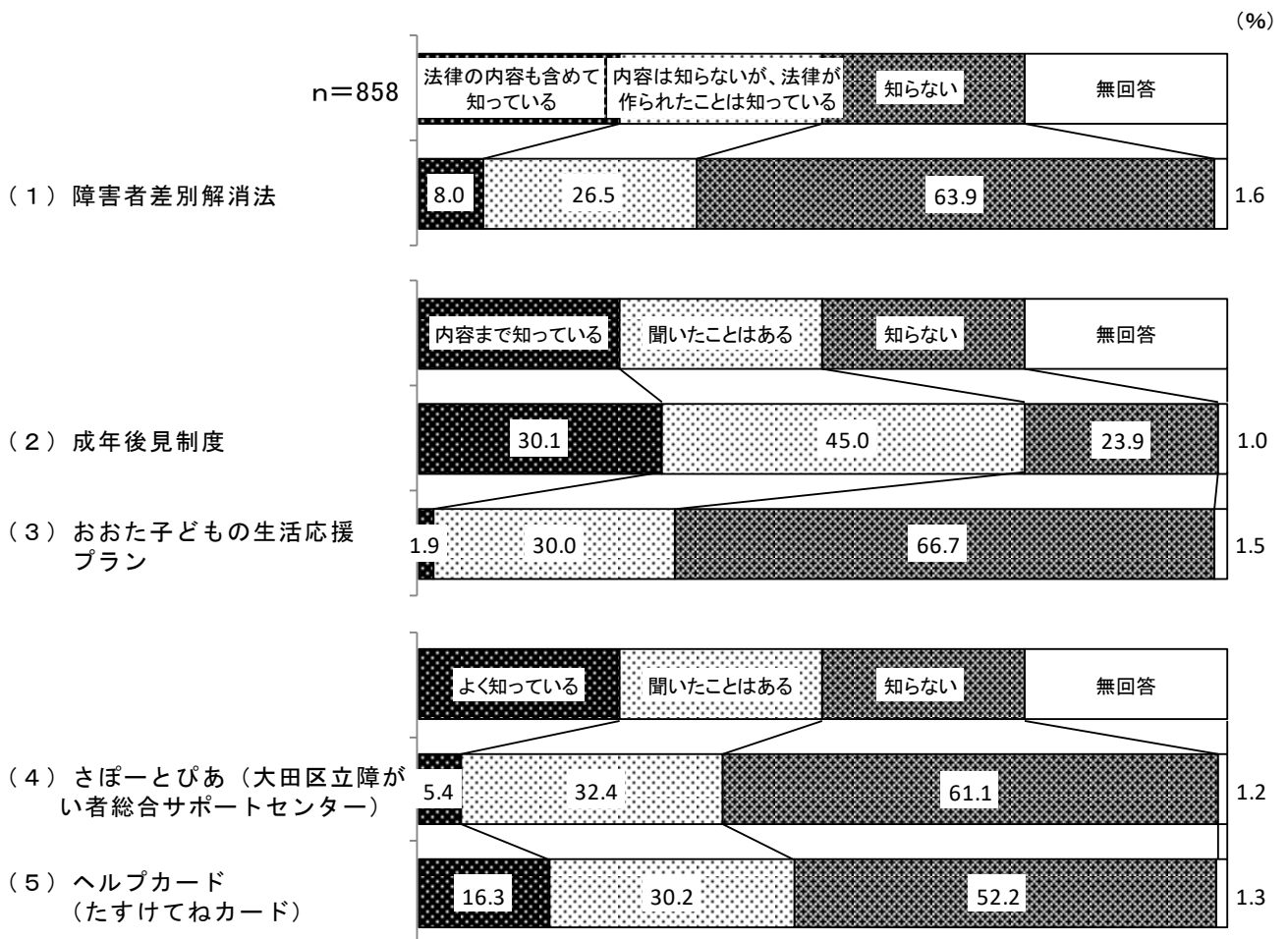
(4) さぽーとぴあ（大田区立障がい者総合サポートセンター）

※障がいのある方の暮らしを総合的にサポートする施設

(5) ヘルプカード（たすけてねカード）

※障がいのある方などが災害時や日常の外出先での緊急時に手助けを求めるためのカード（大田区が作成）

図表3-8 福祉施策等の認知度



【障害者差別解消法】を知っているか聞いたところ、「法律の内容も含めて知っている」が8.0%、「内容は知らないが、法律が作られたことは知っている」が26.5%、「知らない」が63.9%となっている。

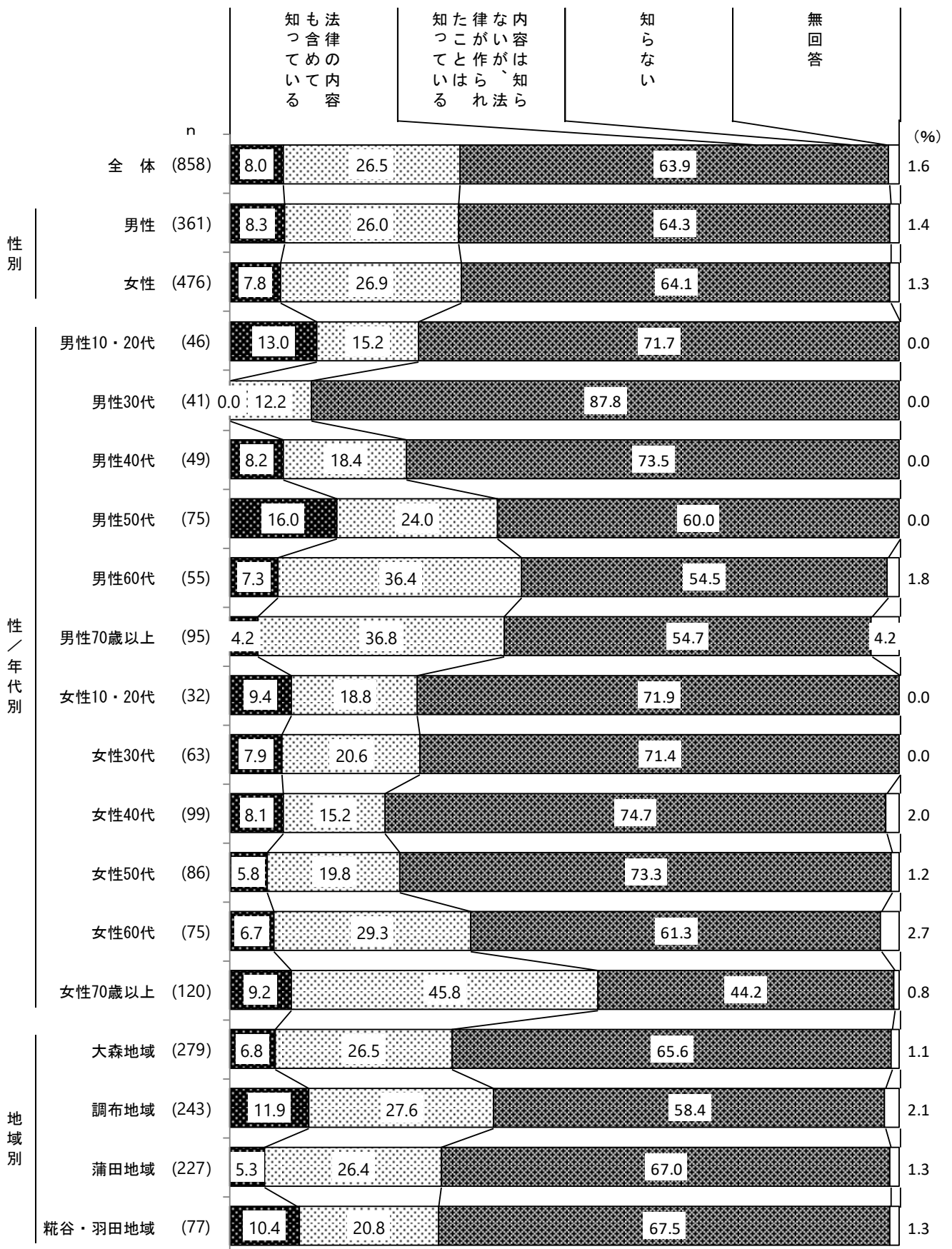
【成年後見制度】を知っているか聞いたところ、「内容まで知っている」が30.1%、「聞いたことはある」が45.0%、「知らない」が23.9%となっている。

【おおた子どもの生活応援プラン】を知っているか聞いたところ、「内容まで知っている」が1.9%、「聞いたことはある」が30.0%、「知らない」が66.7%となっている。

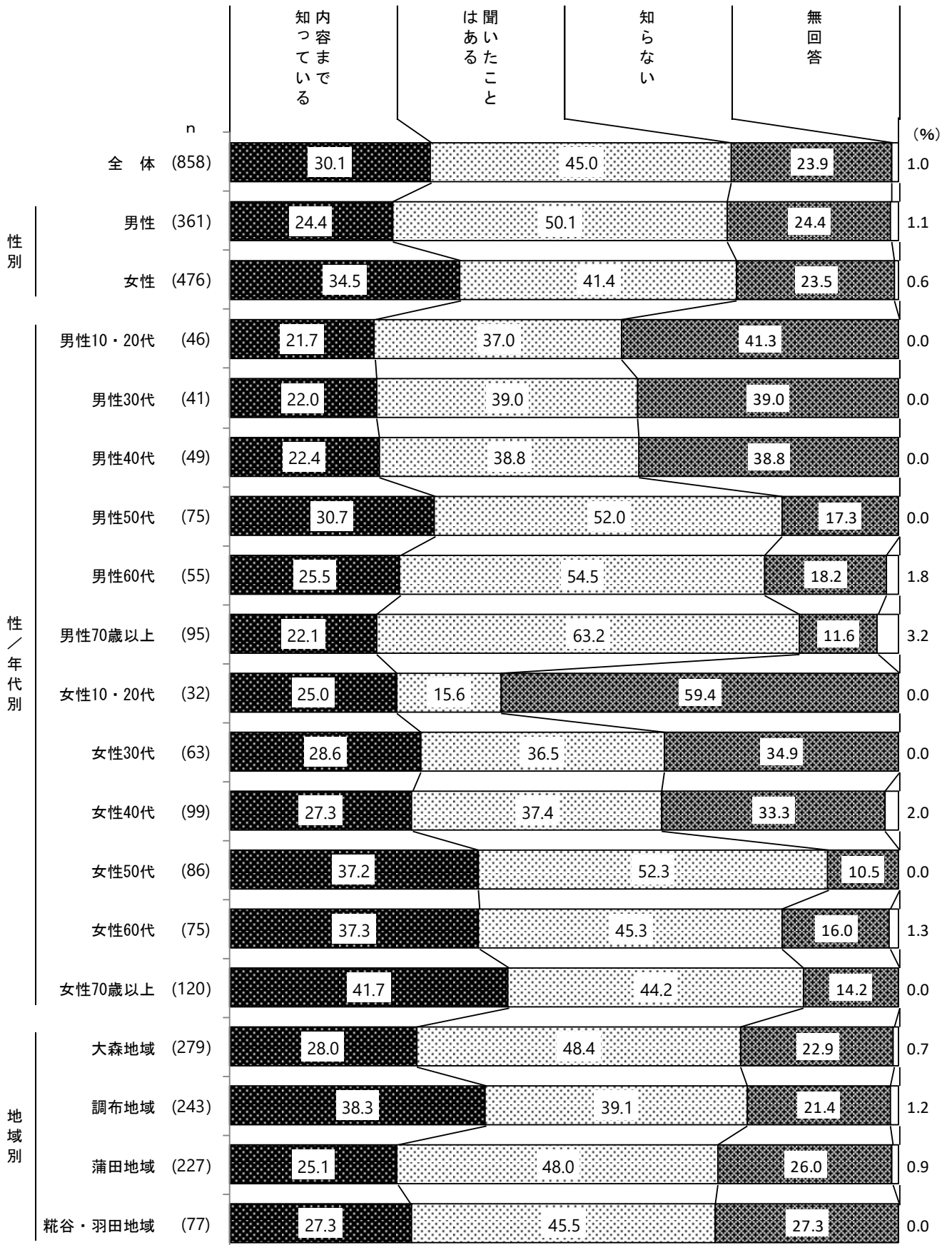
【さぽーとぴあ（大田区立障がい者総合サポートセンター）】を知っているか聞いたところ、「よく知っている」が5.4%、「聞いたことはある」が32.4%、「知らない」が61.1%となっている。

【ヘルプカード（たすけてねカード）】を知っているか聞いたところ、「よく知っている」が16.3%、「聞いたことはある」が30.2%、「知らない」が52.2%となっている。（図表3-8）

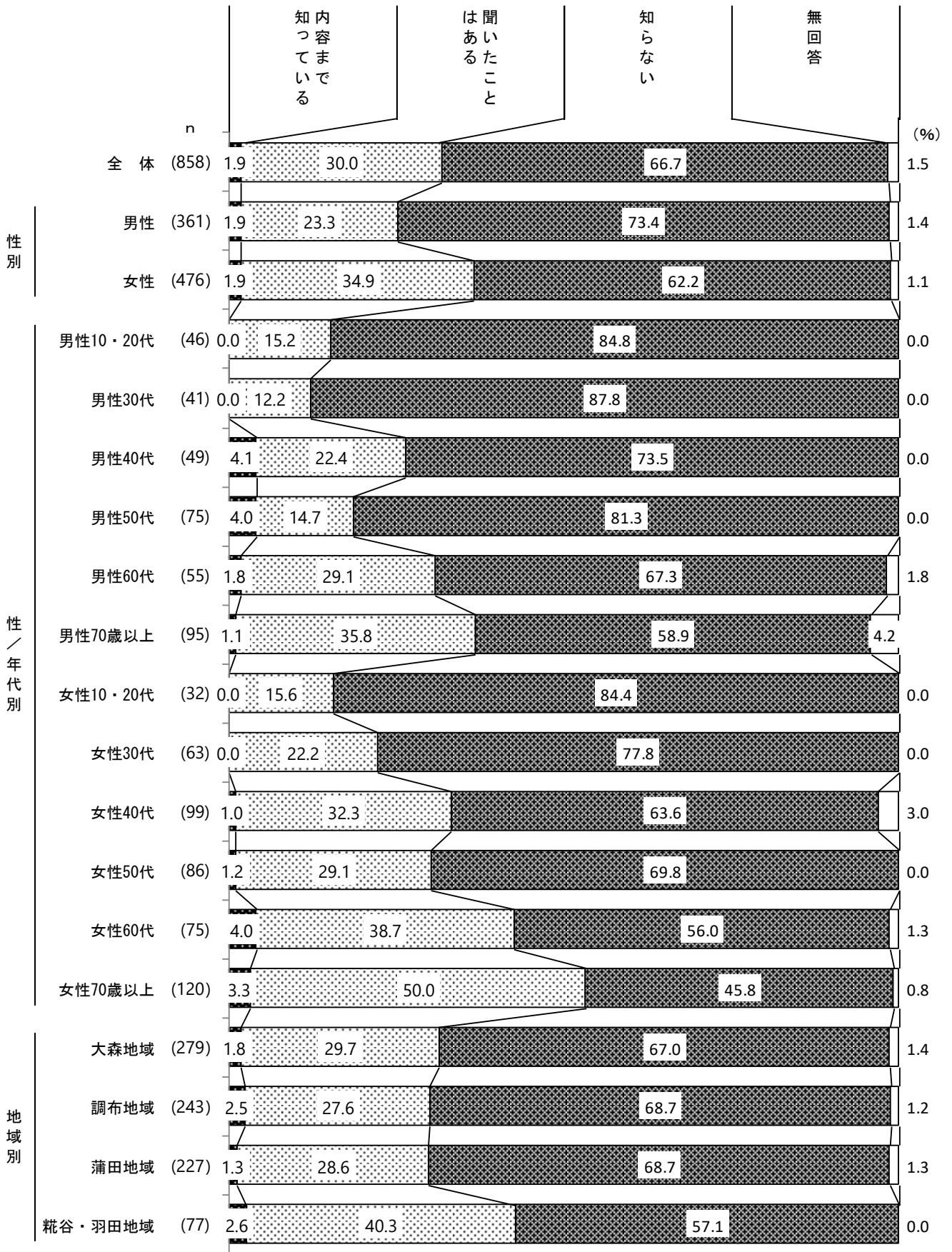
図表3-9 障害者差別解消法の認知度（性別・性/年代別・地域別）



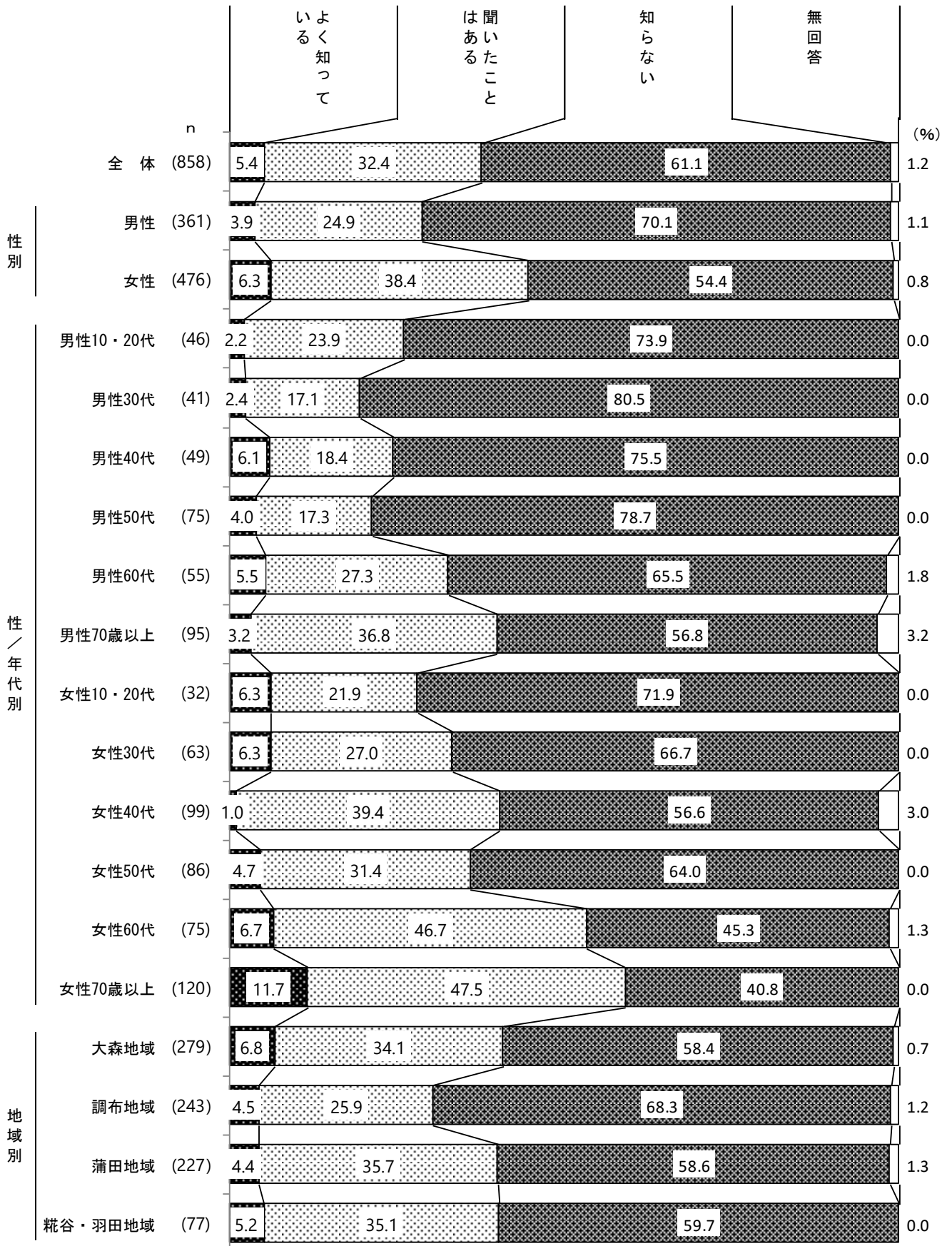
図表3-10 成年後見制度の認知度（性別・性／年代別・地域別）



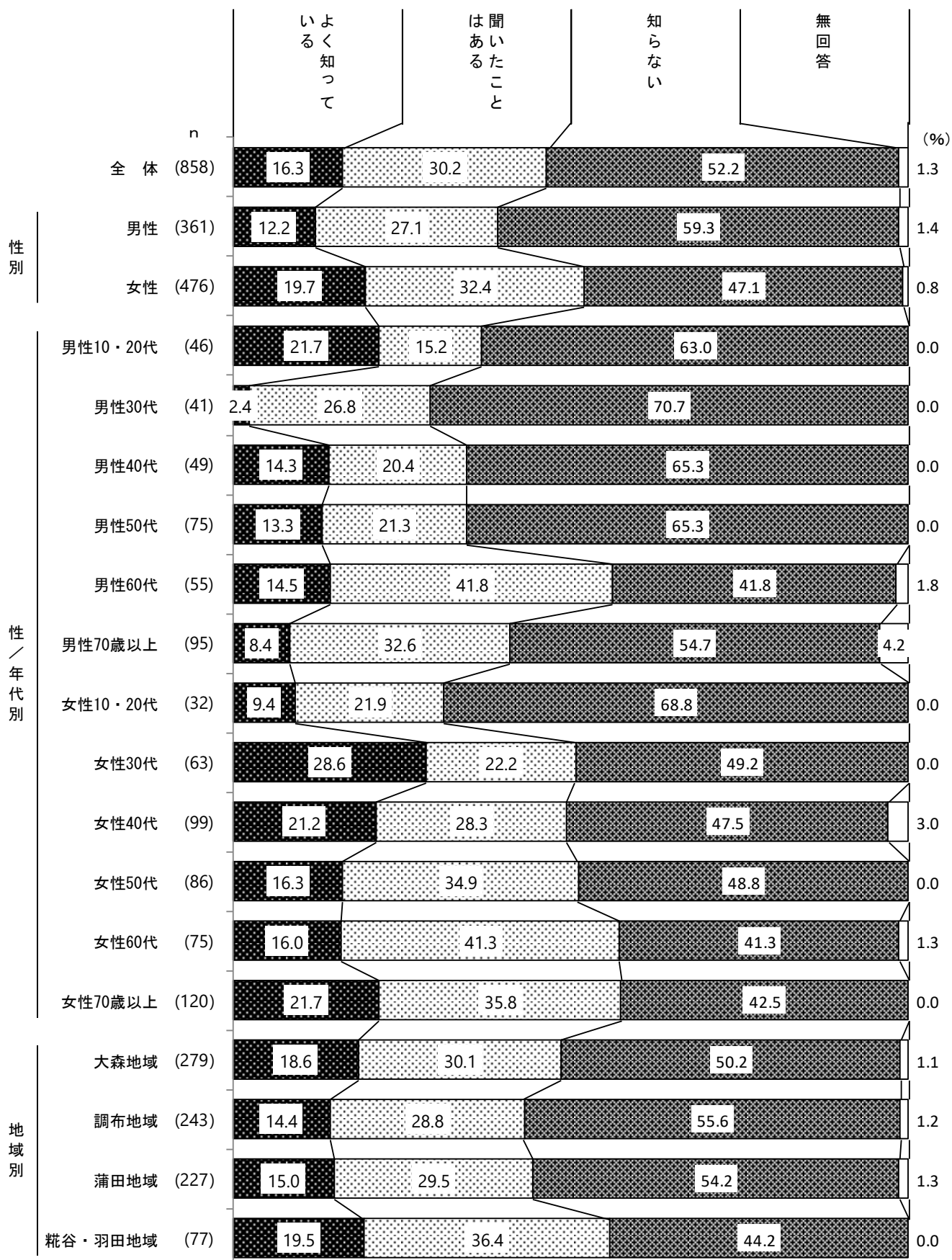
図表3-11 おおた子どもの生活応援プランの認知度（性別・性/年代別・地域別）



図表3-12 さぽーとぴあの認知度（性別・性／年代別・地域別）



図表3-13 ヘルプカード（たすけてねカード）の認知度（性別・性／年代別・地域別）



【障害者差別解消法】の認知度について、性別で見ると大きな差異は見られない。  
性／年代別で見ると、「法律の内容も含めて知っている」は男性 50 代が 16.0%で他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、「知らない」は調布地域が 5 割後半となっている。(図表 3-9)

【成年後見制度】の認知度について、性別で見ると「内容まで知っている」は男性 (24.4%)、女性 (34.5%) と、女性が男性を 10.1 ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「内容まで知っている」は女性 70 歳以上が 4 割台、女性 50 代、60 代が 3 割後半と高くなっている。

地域別で見ると、「知っている」は調布地域が 38.3%となっている。(図表 3-10)

【おおた子どもの生活応援プラン】の認知度について、性別で見ると「聞いたことはある」は男性 (23.3%)、女性 (34.9%) と、女性が男性を 11.6 ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「聞いたことはある」は女性 70 歳以上で 50.0%と他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、「聞いたことはある」は糀谷・羽田地域が 40.3%となっている。(図表 3-11)

【さぽーとぴあ(大田区立障がい者総合サポートセンター)】の認知度について、性別で見ると「聞いたことはある」は男性 (24.9%)、女性 (38.4%) と、女性が男性を 13.5 ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「聞いたことはある」は女性 60 代、70 歳以上で 4 割台と他の年代より高くなっている。(図表 3-12)

【ヘルプカード(たすけてねカード)】の認知度について、性別で見ると「よく知っている」は男性 (12.2%)、女性 (19.7%) と、女性が男性を 7.5 ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「よく知っている」は女性 30 代が 28.6%と他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、「知らない」は糀谷・羽田地域で 44.2%となっている。(図表 3-13)



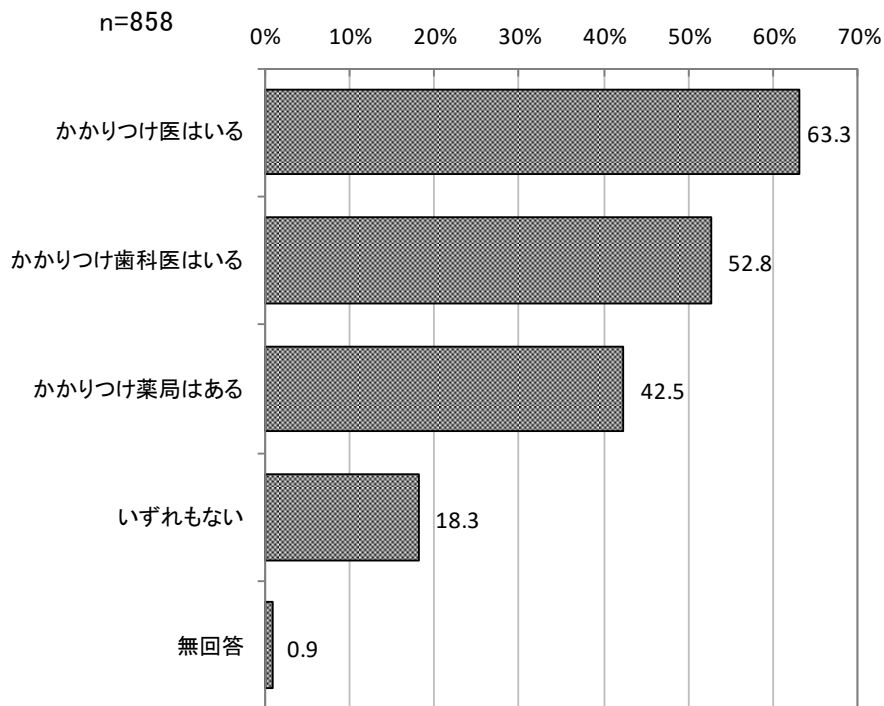
#### 4 通院・喫煙について

##### (1) かかりつけの医療機関について

◎ 「かかりつけ医はいる」が6割前半で最も高くなっている

問9 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか。(〇はいくつでも)

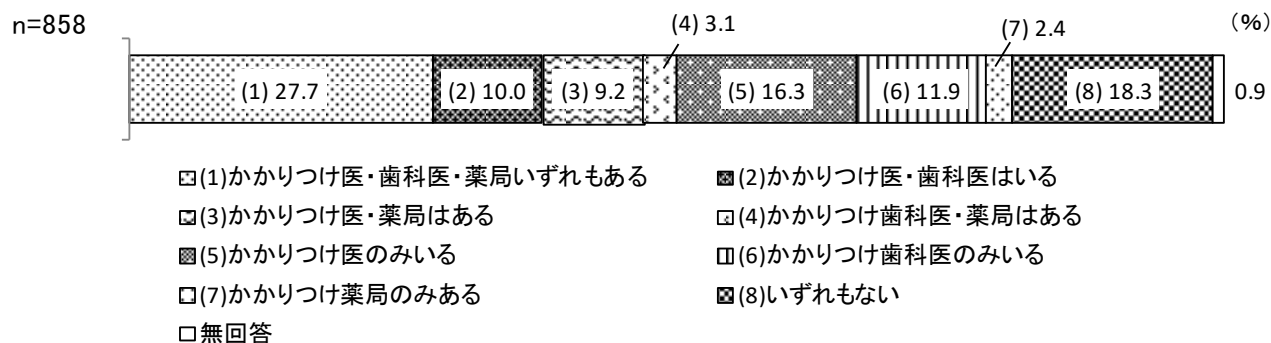
図表4-1 かかりつけ医療機関について



かかりつけの医療機関があるか聞いたところ、「かかりつけ医はいる」が63.3%で最も高く、次いで、「かかりつけ歯科医はいる」(52.8%)、「かかりつけ薬局はある」(42.5%)となっている。

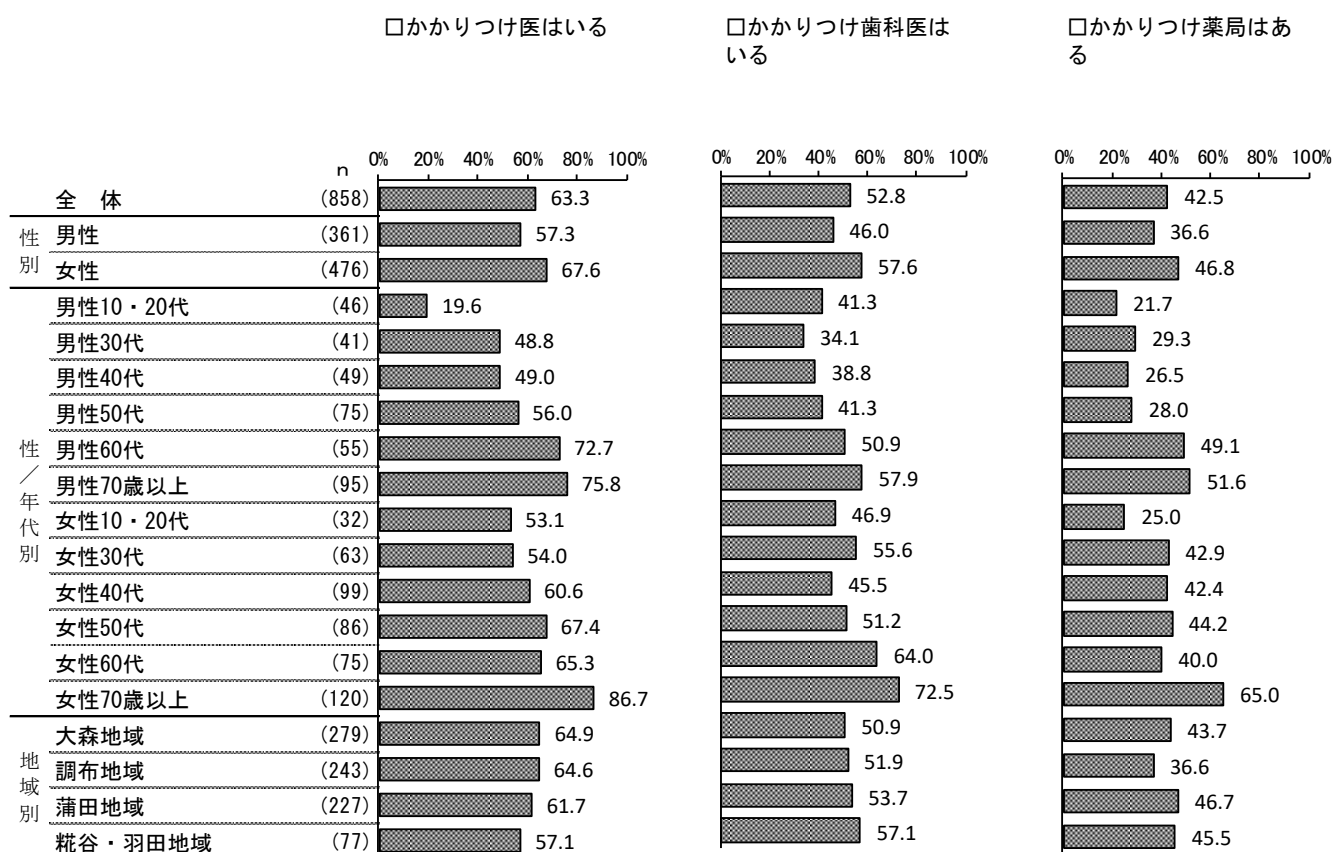
一方、「いずれもない」が18.3%となっている。(図表4-1)

図表4-2 かかりつけ医療機関について



また、「かかりつけ医・歯科医・薬局いずれもある」人(「かかりつけ医はいる」「かかりつけ歯科医はいる」「かかりつけ薬局はある」3つとも回答した人)は27.7%、「かかりつけ医のみいる」人(「かかりつけ医はいる」のみ回答した人)は16.3%となっている。(図表4-2)

図表 4-3 かかりつけ医療機関について（性別・性／年代別・地域別）



かかりつけ医療機関について、性別で見ると「かかりつけ医はいる」は男性(57.3%)、女性(67.6%)、「かかりつけ歯科医はいる」は男性(46.0%)、女性(57.6%)、「かかりつけ薬局はある」は男性(36.6%)、女性(46.8%)と、それぞれ女性が男性を10.3ポイント、11.6ポイント、10.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「かかりつけ医はいる」は女性70歳以上が8割台、男性60代、70歳以上が7割台で他の年代より高くなっている。「かかりつけ歯科医はいる」は女性70歳以上が72.5%と他の年代より高く、全ての年代で女性が男性を上回っている。「かかりつけ薬局はある」は女性70歳以上が6割半ば、男性60代、70歳以上が約5割で他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、「かかりつけ医はいる」は大森地域、調布地域、蒲田地域が6割台、糀谷・羽田地域が5割後半となっている。(図表4-3)

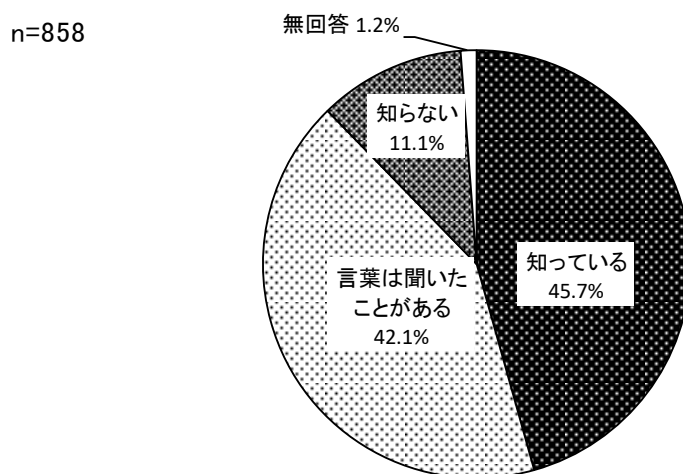
(2) 「在宅医療」の認知度

◎ 「知っている」が4割半ばとなっている

問 10 「在宅医療」の制度や仕組みについて知っていますか。(○は1つ)

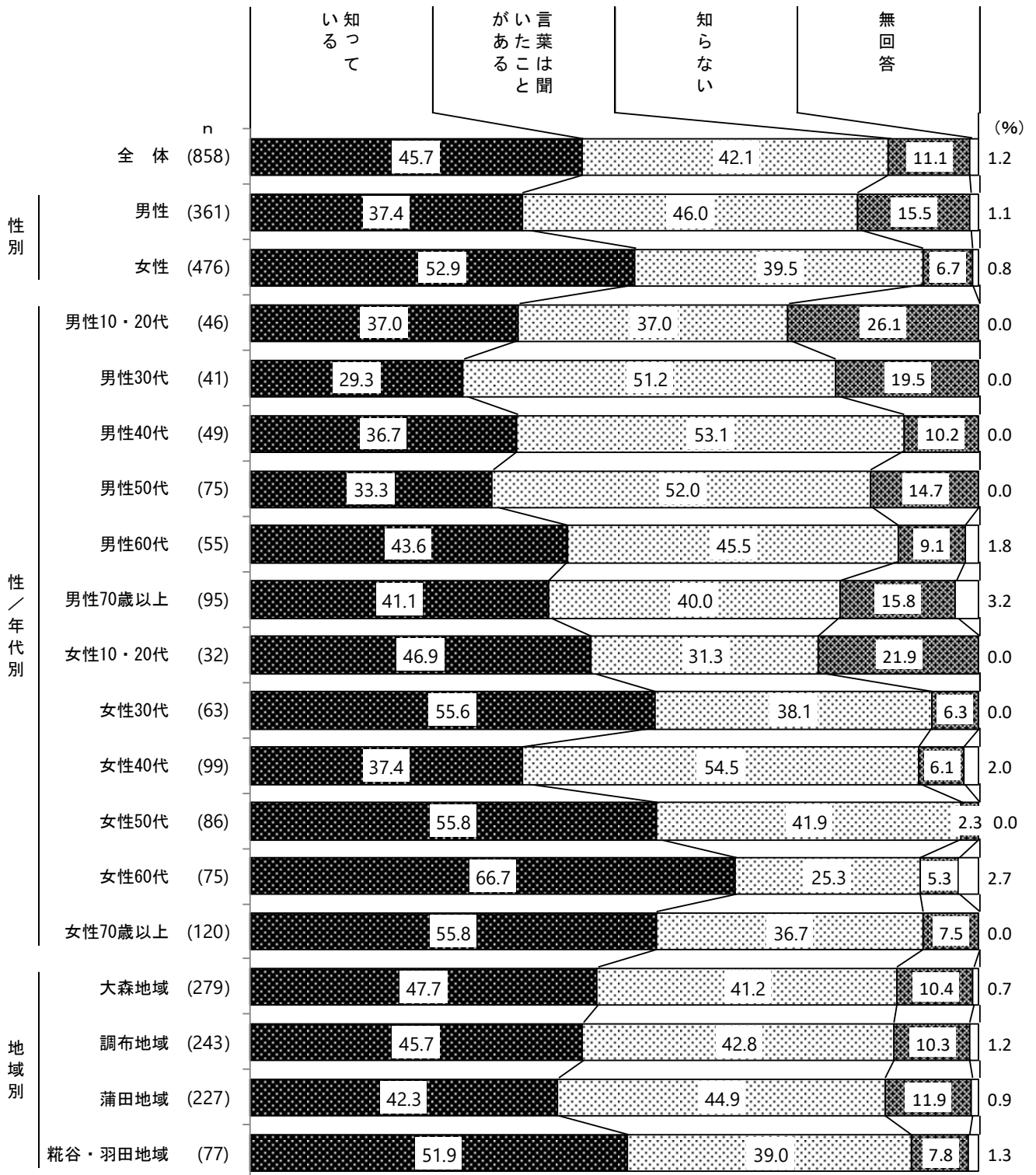
※在宅医療とは、自宅等において、医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを受けながら、療養生活を送ること。

図表 4-4 「在宅医療」の認知度



「在宅医療」の制度や仕組みを知っているか聞いたところ、「知っている」が45.7%、「言葉は聞いたことがある」が42.1%、「知らない」が11.1%となっている。(図表4-4)

図表 4-5 「在宅医療」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「在宅医療」の制度や仕組みを知っているかについて、性別でみると「知っている」は男性(37.4%)、女性(52.9%)と、女性が男性を15.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っている」は女性60代が66.7%、女性30代、50代、70歳以上が5割半ばで、全ての年代で女性が男性を上回っている。

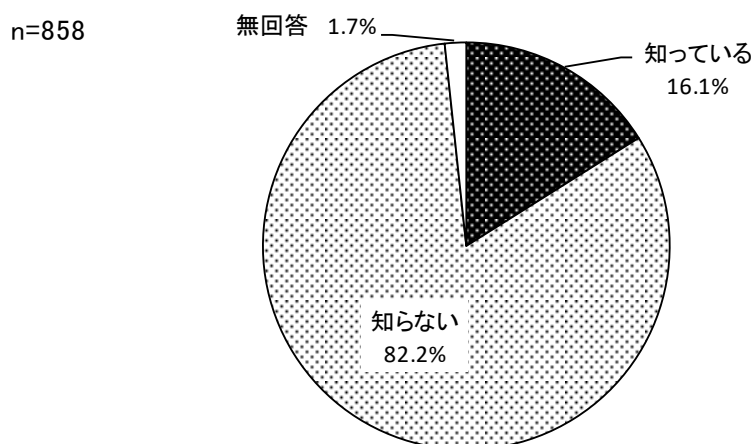
地域別でみると、大きな差異は見られなかった。(図表4-5)

(3) 緊急医療救護所及び軽症者救護所の認知度

◎ 「知っている」は1割半ばとなっている

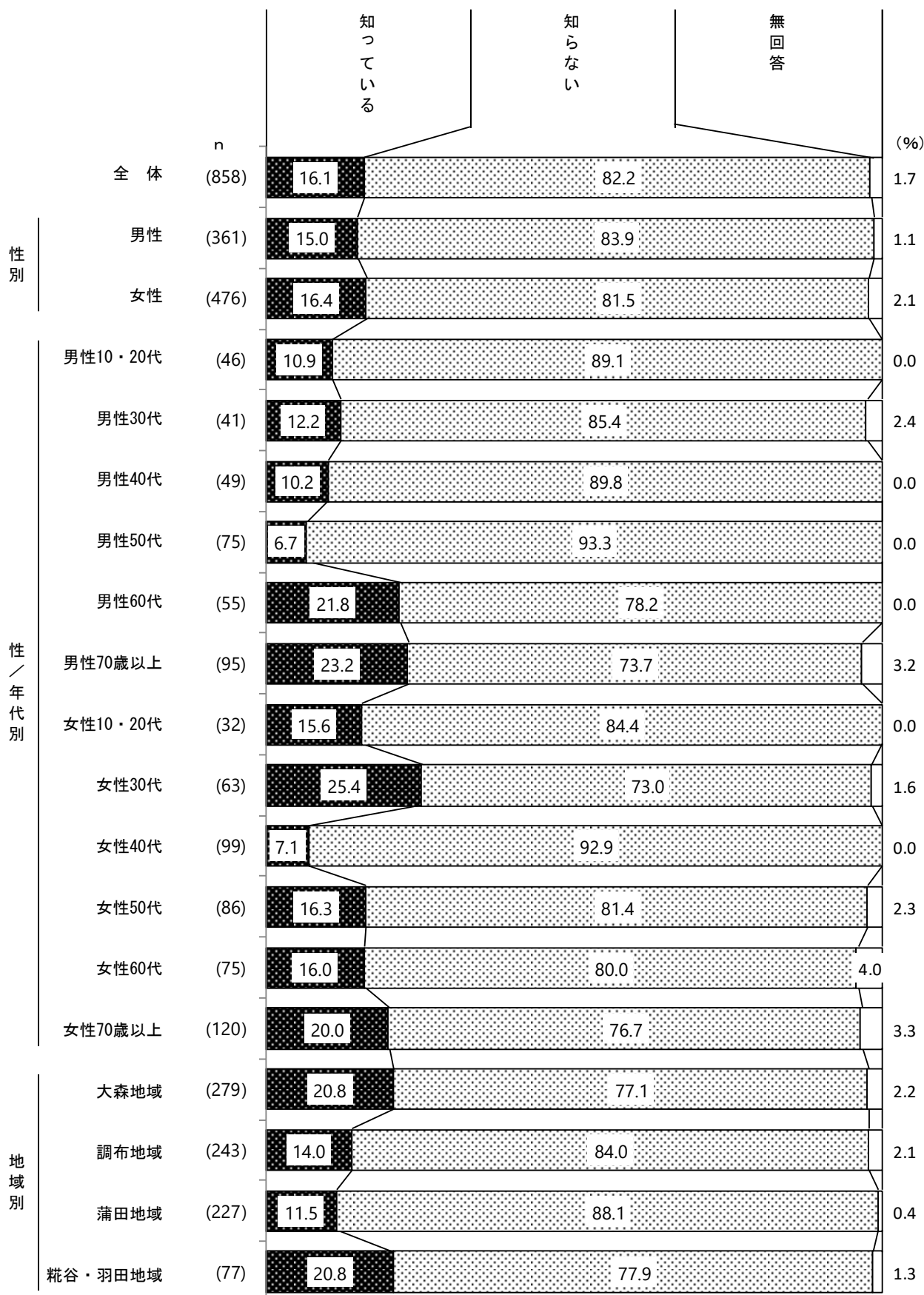
問 11 区内で震度6弱以上の大地震が発生し、ライフラインが停止した場合、診療所等は休診し、緊急医療救護所及び軽症者救護所を開設することになっています。ご存じですか。  
(○は1つ)

図表 4 - 6 緊急医療救護所及び軽症者救護所の認知度



緊急医療救護所及び軽症者救護所について知っているか聞いたところ、「知っている」が16.1%、「知らない」が82.2%となっている。(図表4-6)

図表4-7 緊急医療救護所及び軽症者救護所の認知度（性別・性／年代別・地域別）



緊急医療救護所及び軽症者救護所の認知度について、性別で見ると男女で大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると、「知っている」は男性では70歳以上が23.2%、女性では30代が25.4%でそれぞれ最も高くなっている。

地域別で見ると、「知っている」は大森地域、糀谷・羽田地域で約2割となっている。

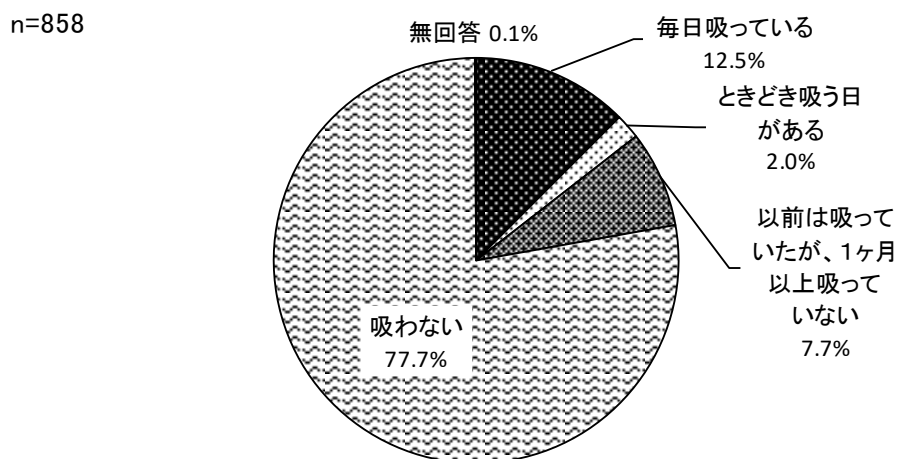
(図表4-7)

(4) 喫煙について

◎ 「吸わない」が7割後半となっている

問12 あなたは、たばこを吸いますか。(○は1つ)

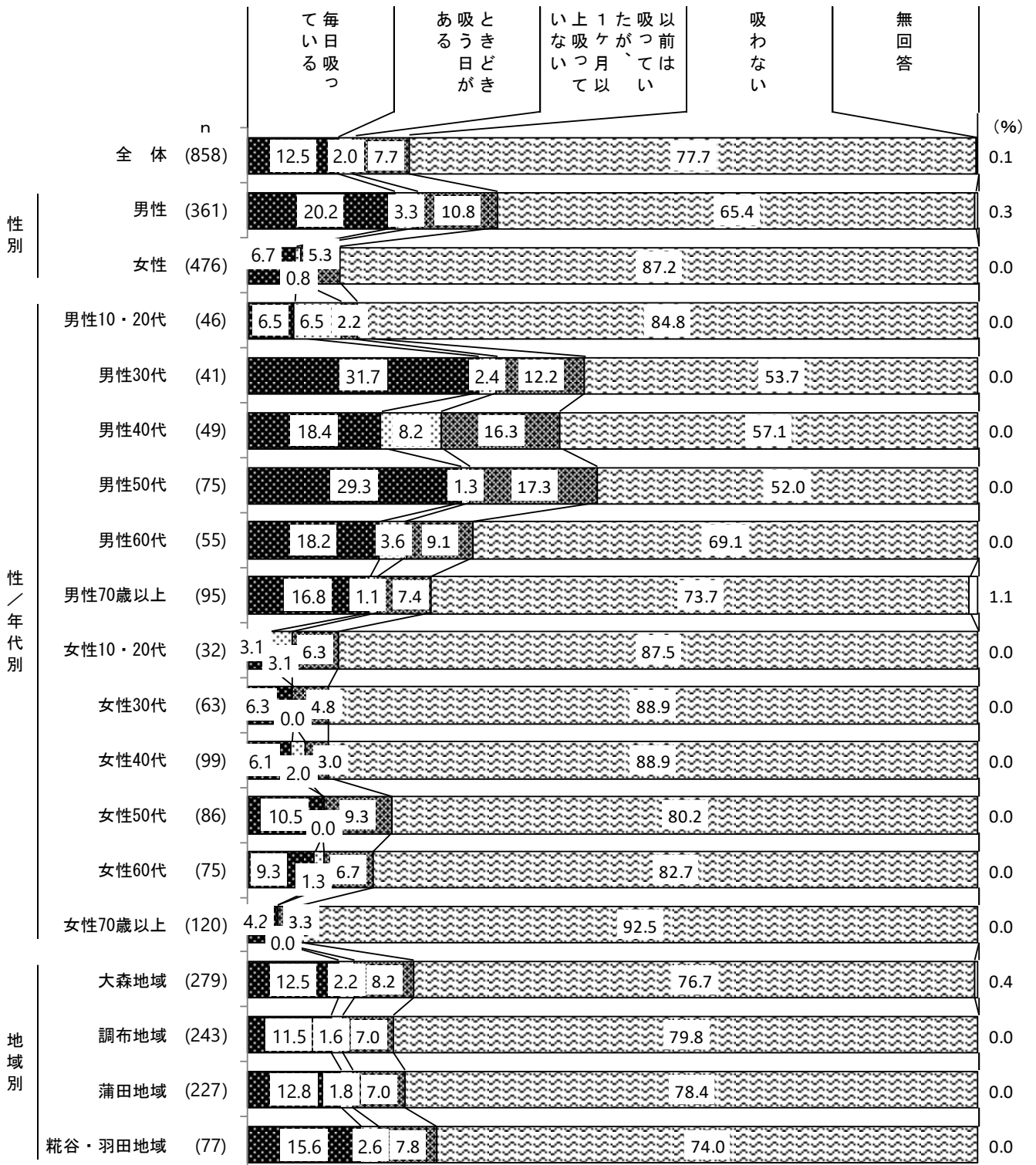
図表4-8 喫煙について



たばこを吸うか聞いたところ、「毎日吸っている」が12.5%、「ときどき吸う日がある」が2.0%、「以前は吸っていたが、1ヶ月以上吸っていない」が7.7%、「吸わない」が77.7%となっている。(図表4-8)



図表4-9 喫煙について（性別・性/年代別・地域別）



喫煙について、性別で見ると「毎日吸っている」は男性（20.2%）、女性（6.7%）と、男性が女性を13.5ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「毎日吸っている」は男性30代が31.7%で最も高く、全ての年代で男性が女性を上回っている。

地域別で見ると、大きな差異は見られない。（図表4-9）

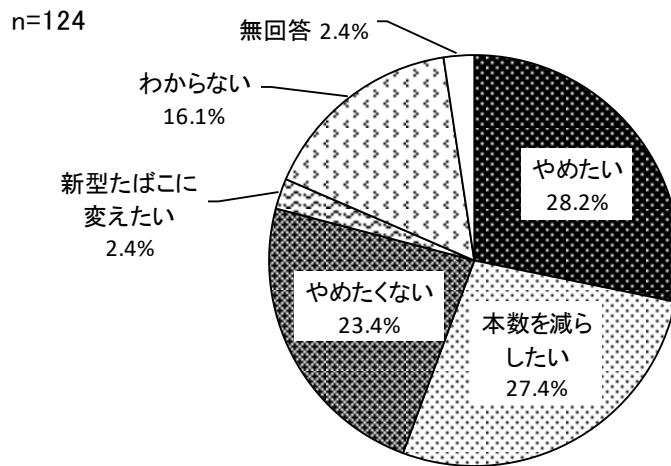
(5) 禁煙願望の有無

◎ 「やめたい」が2割後半となっている

【問12で「1. 毎日吸っている」または「2. ときどき吸う日がある」と回答された方】

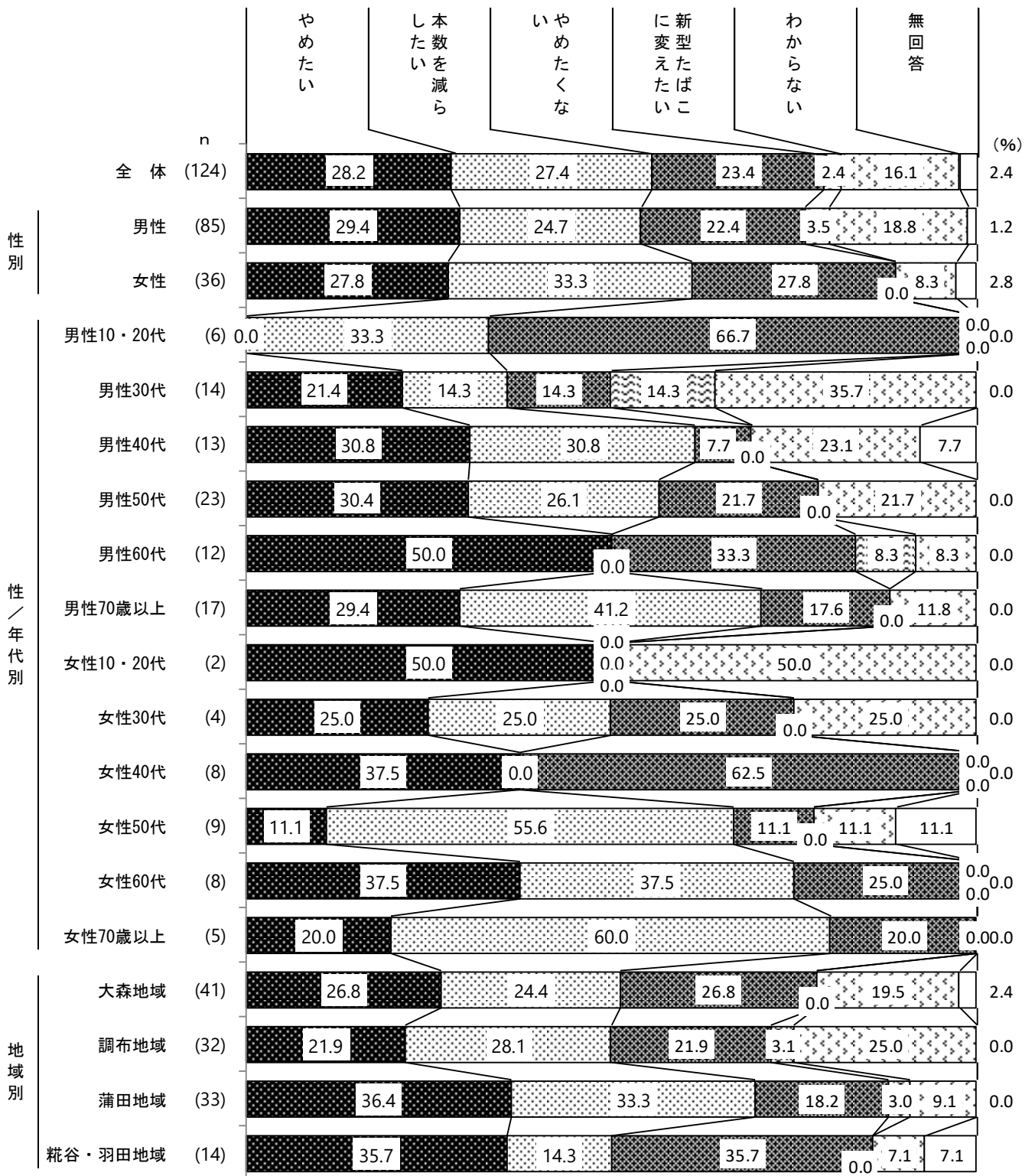
問12-1 あなたは、たばこをやめたいと思いますか。(○は1つ)

図表4-10 禁煙願望の有無



たばこを吸う人に、たばこをやめたいと思うか聞いたところ、「やめたい」が28.2%、「本数を減らしたい」が27.4%、「やめたくない」が23.4%となっている。(図表4-10)

図表4-11 禁煙願望の有無（性別・性／年代別・地域別）



禁煙願望の有無について、性別でみると「本数を減らしたい」は男性（24.7%）、女性（33.3%）と、女性が男性を8.6ポイント上回っている。

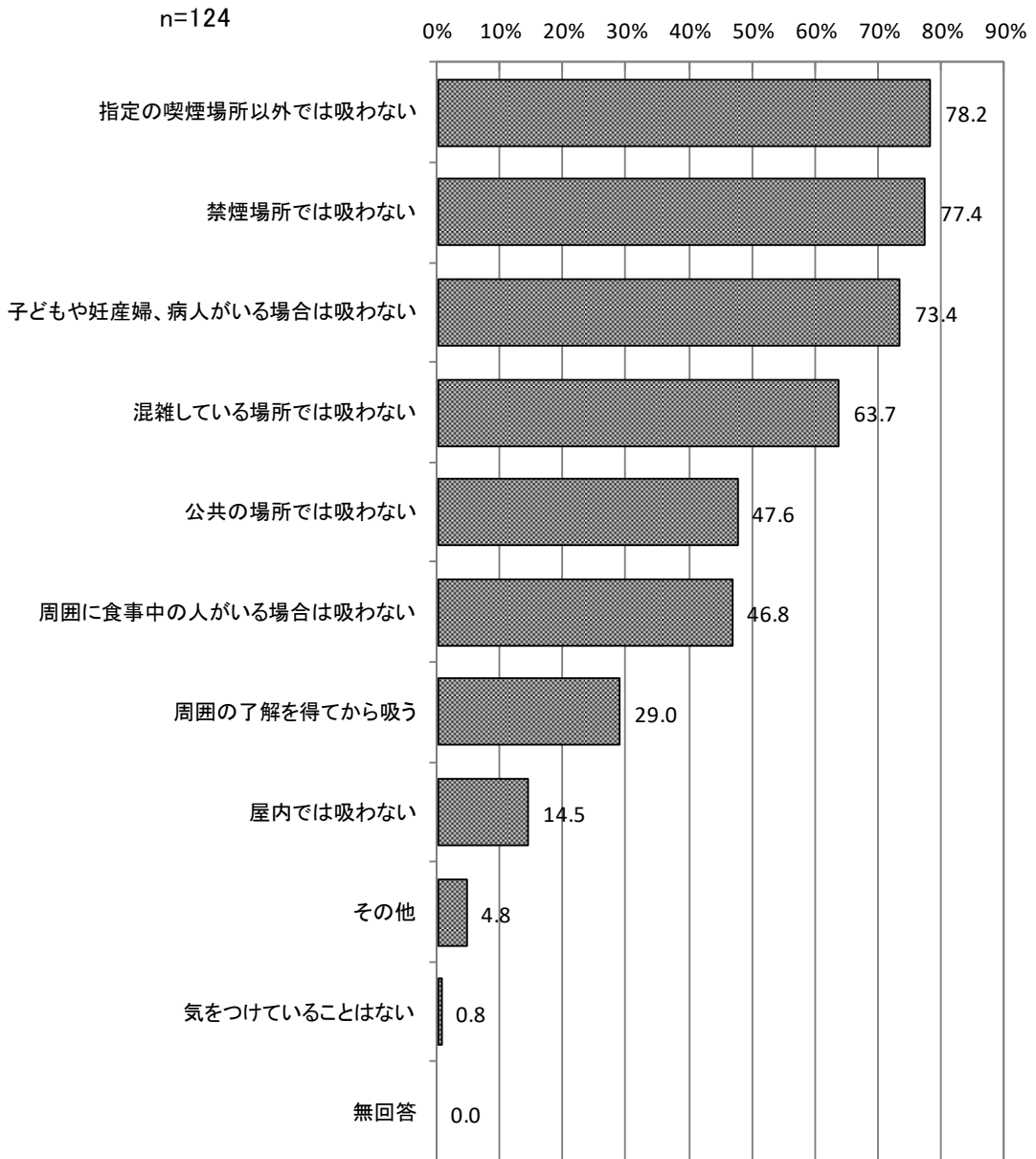
地域別でみると、蒲田地域は「やめたい」が36.4%、「本数を減らしたい」が33.3%となっている。（図表4-11）

(6) 喫煙時に注意していることについて

◎ 「指定の喫煙場所以外では吸わない」、「禁煙場所では吸わない」が7割後半

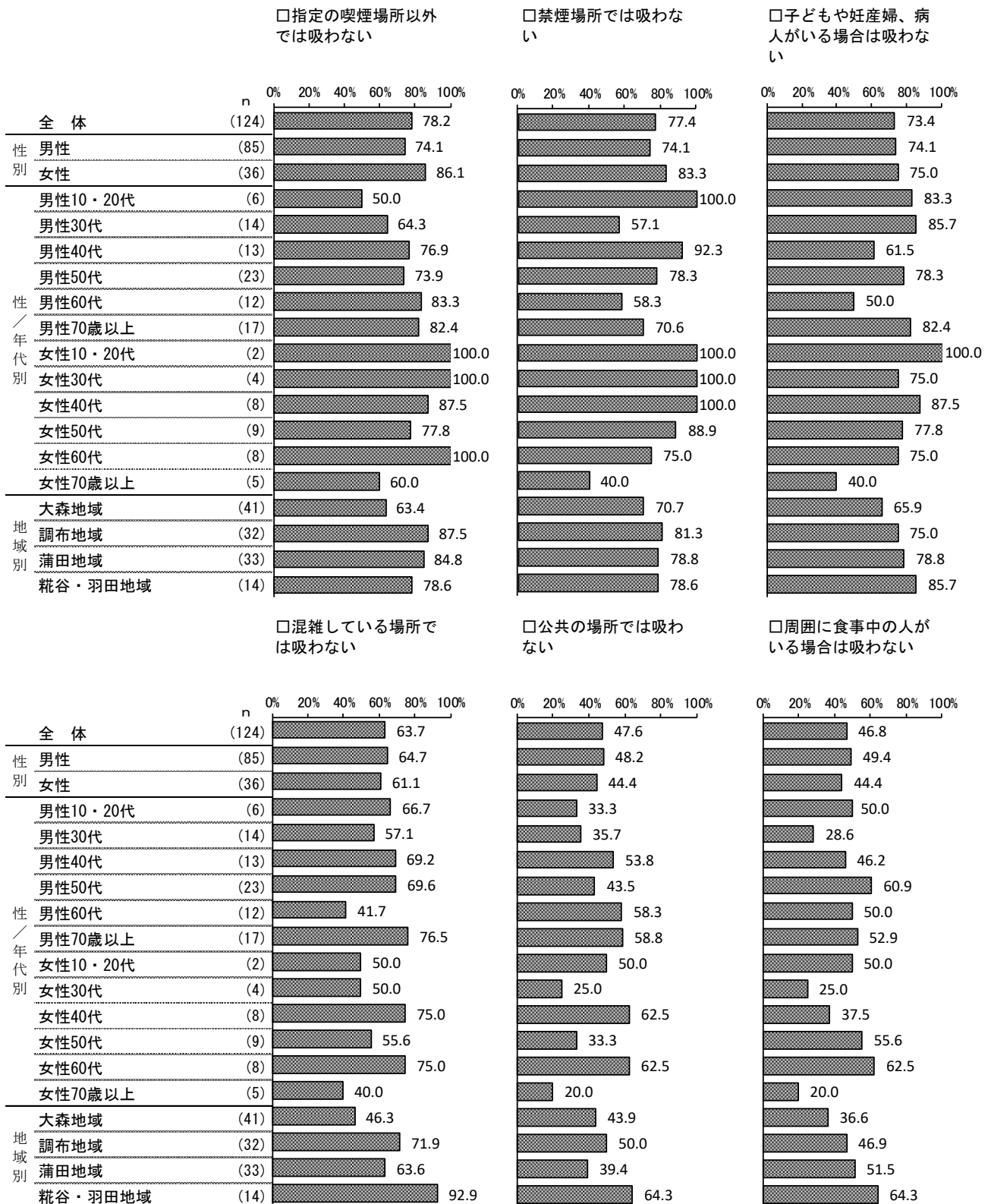
【問 12 で「1. 毎日吸っている」または「2. ときどき吸う日がある」と回答された方】  
問 12-2 たばこを吸うときに気をつけていることはありますか。(〇はいくつでも)

図表 4-12 喫煙時に注意していることについて



たばこを吸う人に、気をつけていることを聞いたところ、「指定の喫煙場所以外では吸わない」が78.2%で最も高く、次いで、「禁煙場所では吸わない」(77.4%)、「子どもや妊産婦、病人がいる場所では吸わない」(73.4%)となっている。(図表 4-12)

図表 4-13 喫煙時に注意していることについて（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



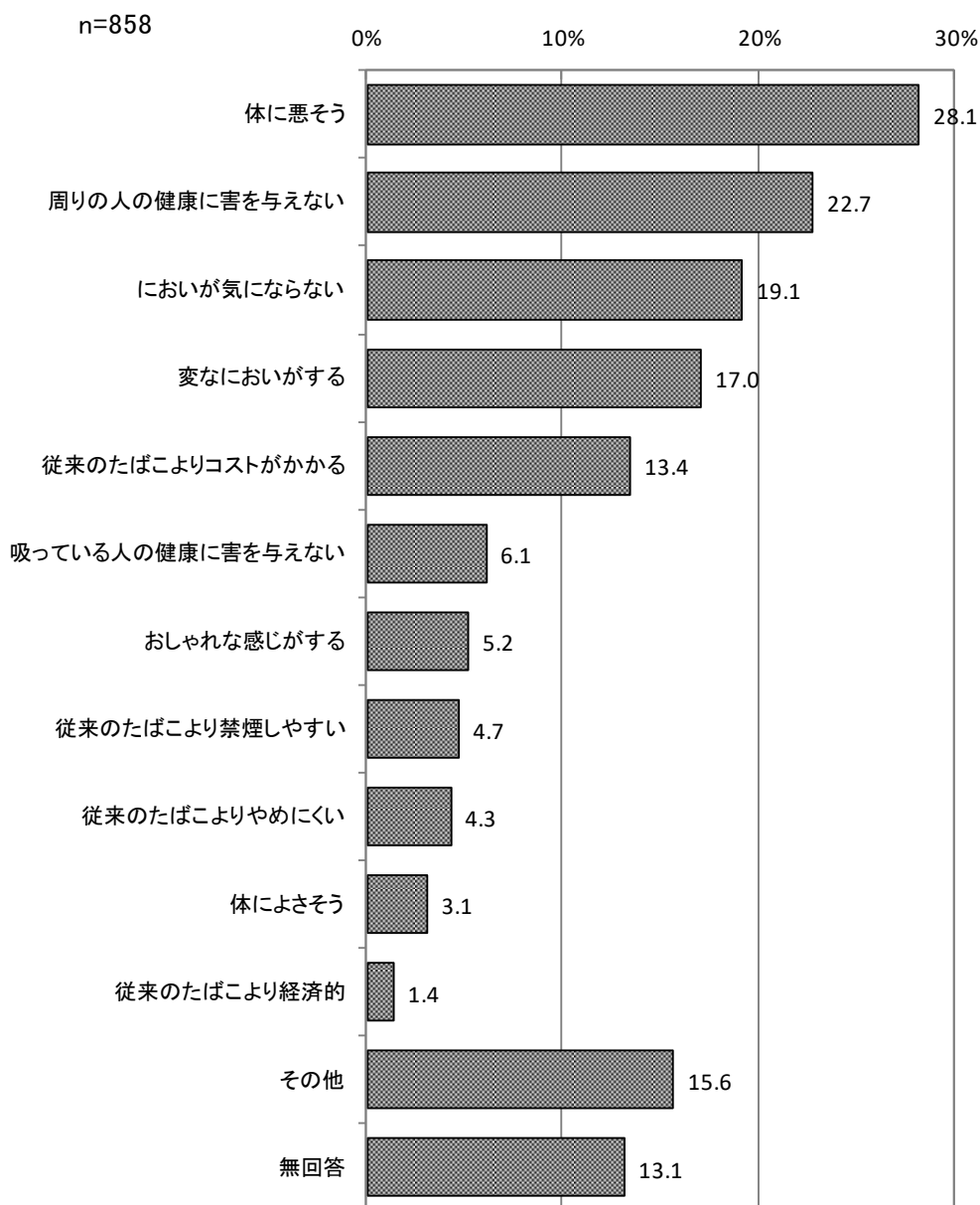
たばこを吸う際に気をつけていることについて、上位6項目を性別で見ると、「指定の喫煙場所以外では吸わない」では男性（74.1%）、女性（86.1%）、「禁煙場所では吸わない」では男性（74.1%）、女性（83.3%）と、それぞれ女性が男性を12.0ポイント、9.2ポイント上回っている。（図表4-13）

(7) 新型たばこのイメージ

◎ 「体に悪そう」が2割後半で最も高くなっている

問 13 新型たばこ（加熱式たばこ）についてあなたの持っているイメージであてはまるものはありますか。（○はいくつでも）

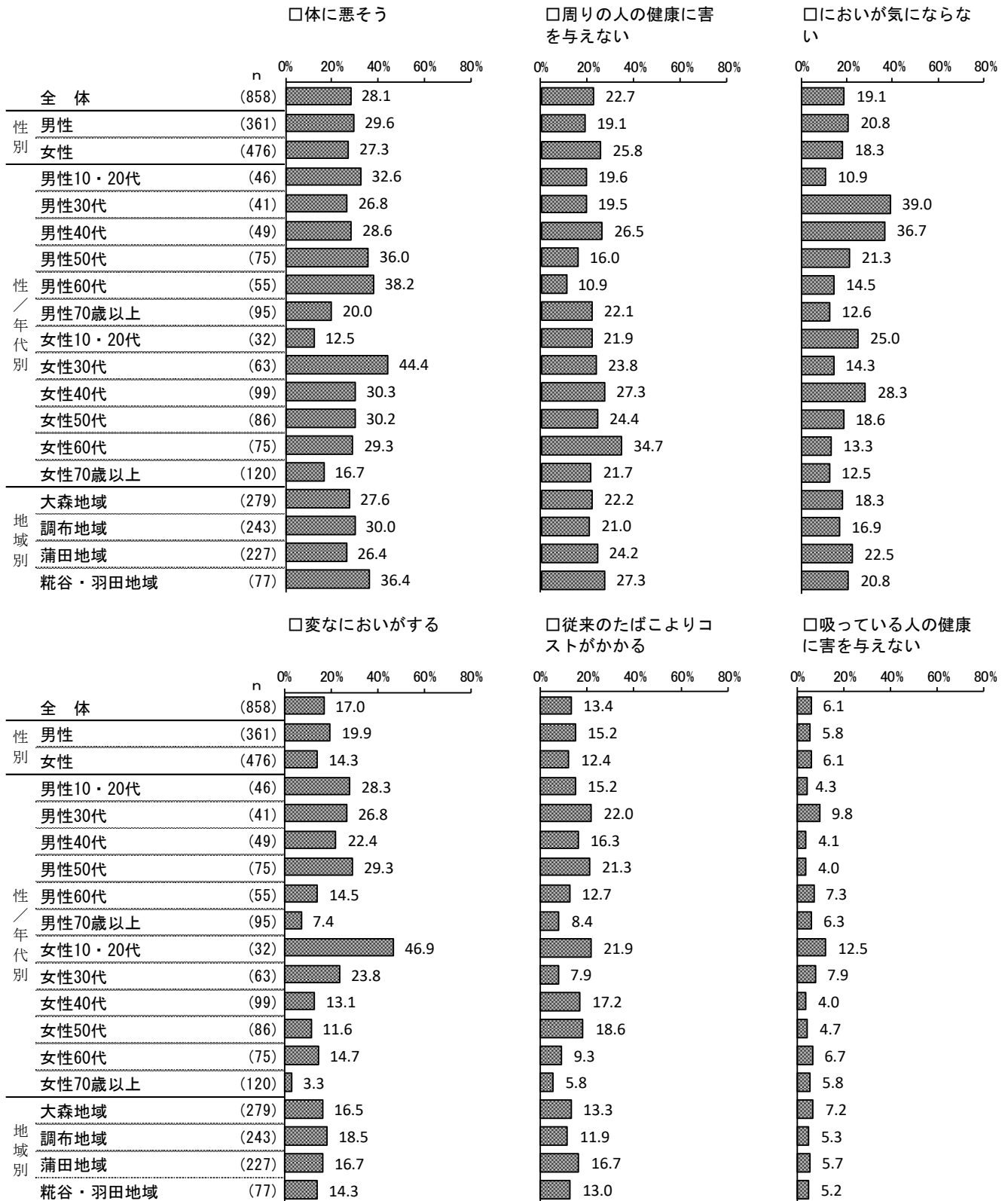
図表 4-14 新型たばこのイメージ



新型たばこのイメージを聞いたところ、「体に悪そう」が28.1%と最も高く、次いで、「周りの人の健康に害を与えない」(22.7%)、「においが気にならない」(19.1%) などとなっている。

(図表 4-14)

図表4-15 新型たばこのイメージ（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



新型たばこのイメージについて、上位6項目を性別で見ると「体に悪そう」は男女ともに2割台で大きな差異は見られない。

性／年代別で見ると、「体に悪そう」は女性30代で44.4%と他の年代より高くなっている。「においが気にならない」は男性30代、40代で3割台と他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、「体に悪そう」では糞谷・羽田地域で3割半ば、大森地域、調布地域、蒲田地域が2割半ばから3割となっている。(図表4-15)



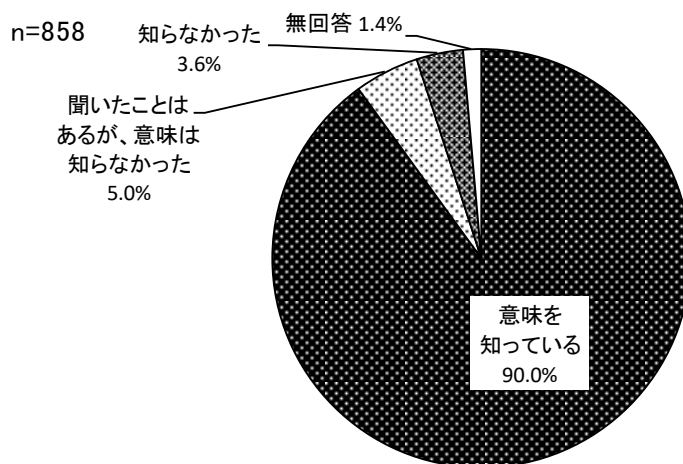
(8) 受動喫煙について

◎ 「意味を知っている」が9割

問 14 あなたは、「受動喫煙」という言葉をご存知ですか。(○は1つ)

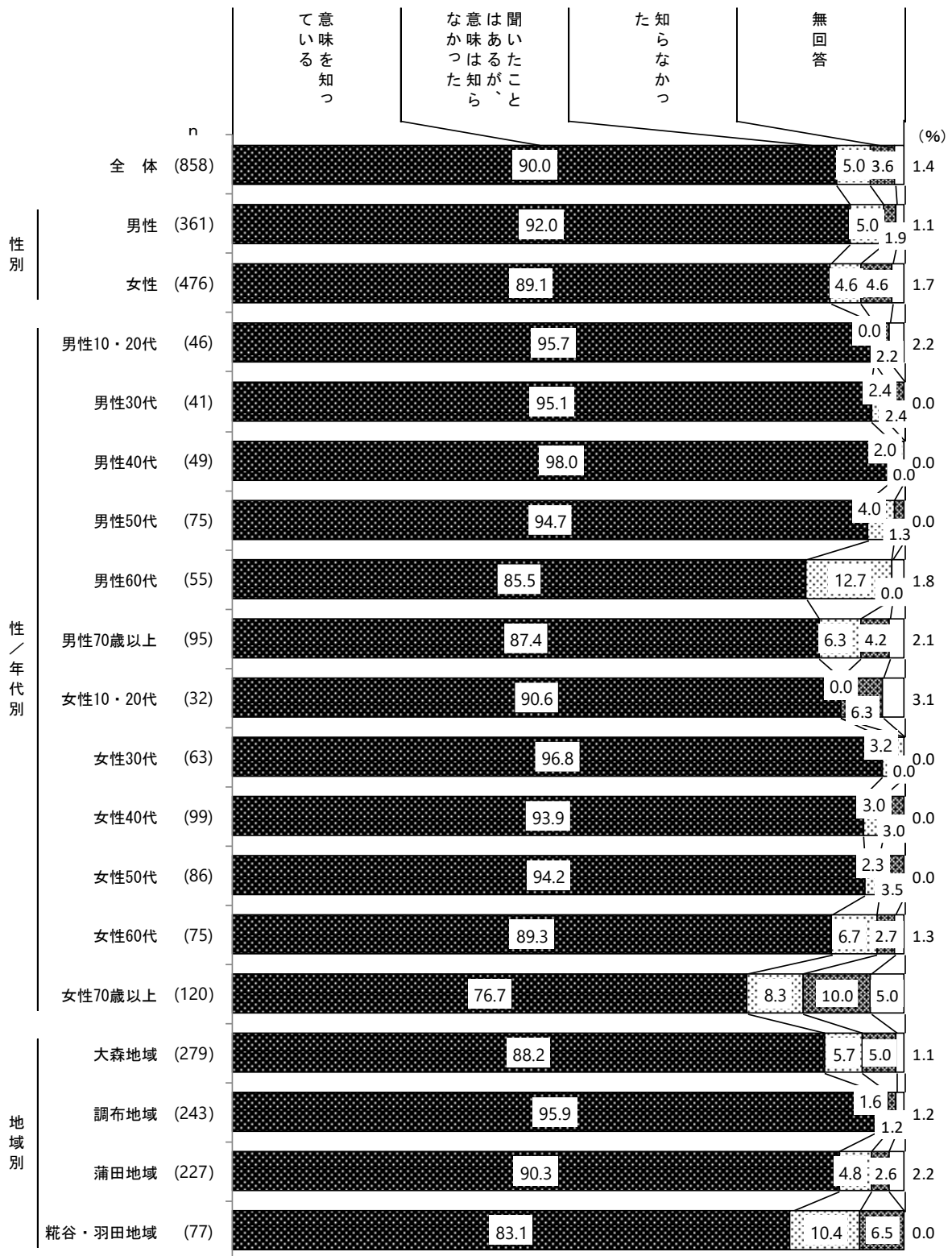
※受動喫煙とは、人が他人の喫煙によりたばこから発生した煙にさらされること。

図表 4-16 受動喫煙について



「受動喫煙」という言葉を知っているか聞いたところ、「意味を知っている」が90.0%と最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」(5.0%)、「知らなかった」(3.6%)となっている。(図表4-16)

図表 4-17 受動喫煙について（性別・性／年代別・地域別）



「受動喫煙」について、性別で見ると「意味を知っている」は男性（92.0%）、女性（89.1%）と大きな差異は見られない。

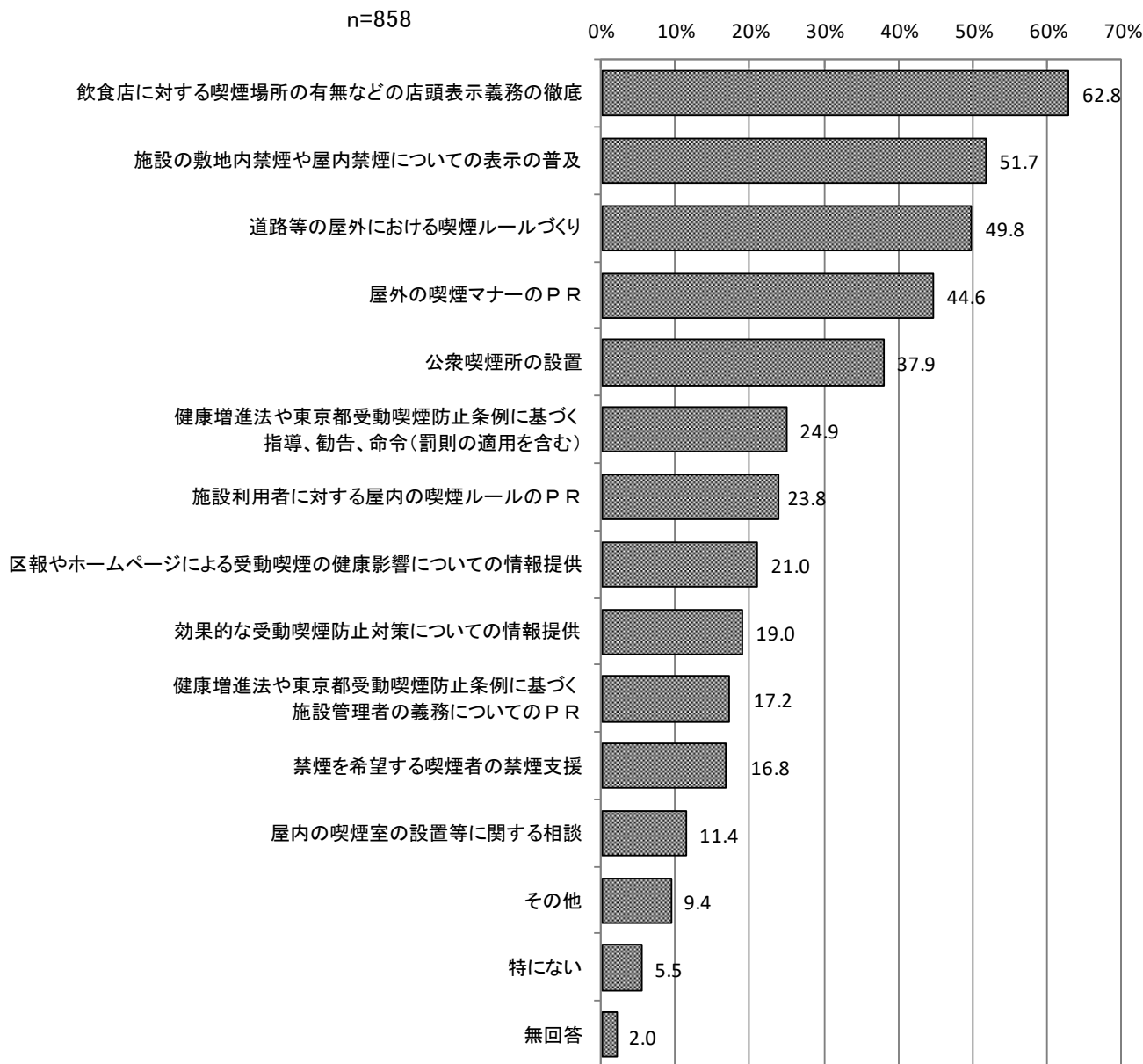
性／年代別で見ると、「意味を知っている」は男女ともに60～70歳以上を除いた年代で9割台となっている。（図表4-17）

(9) 受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて

◎ 「飲食店に対する喫煙場所の有無などの店頭表示義務の徹底」が6割台で最も高くなっている

問 15 受動喫煙防止のために大田区に望むことは何ですか。(〇はいくつでも)

図表 4-18 受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて

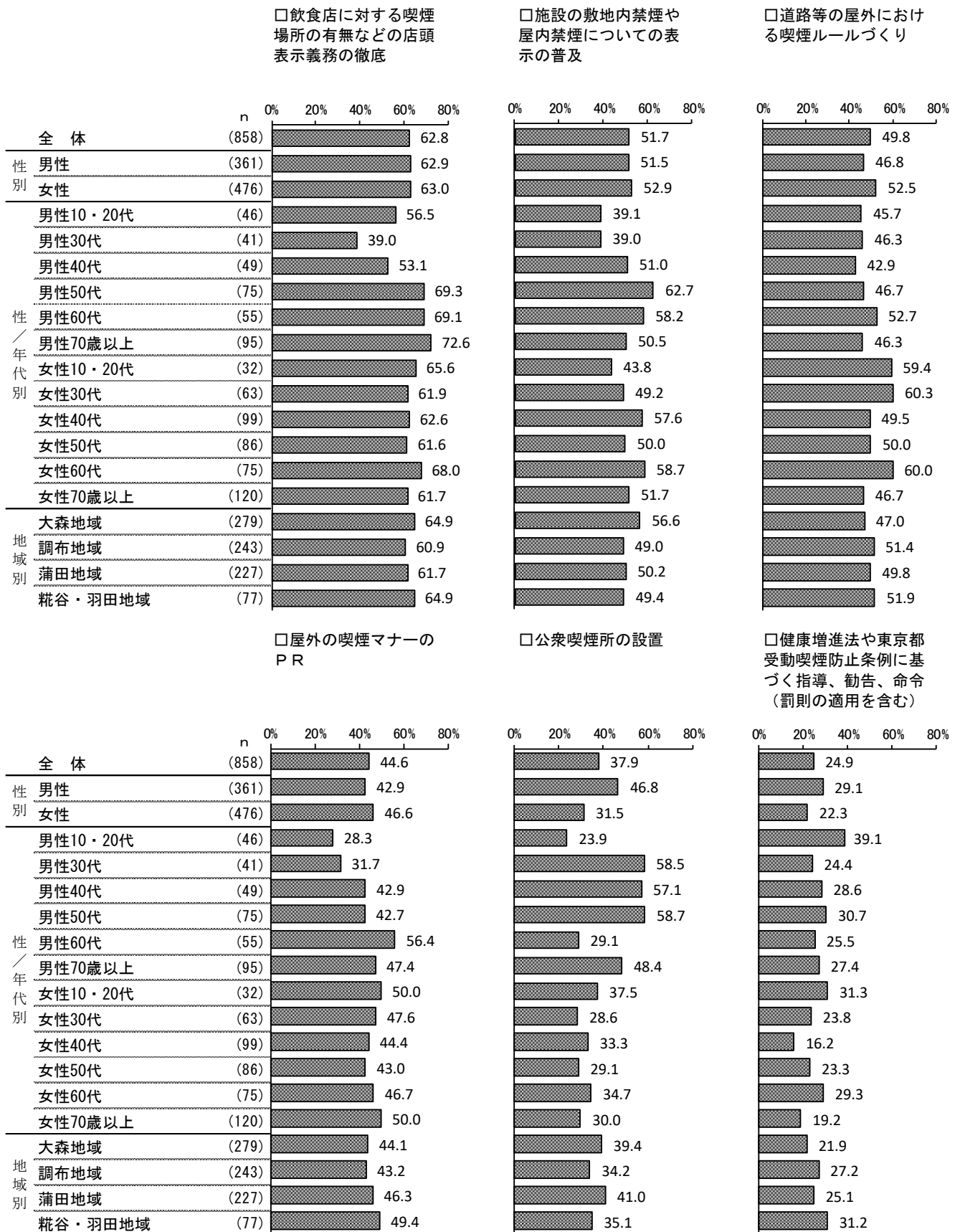


受動喫煙防止のため大田区に望むことを聞いたところ、「飲食店に対する喫煙場所の有無などの店頭表示義務の徹底」が62.8%で最も高く、次いで、「施設の敷地内禁煙や屋内禁煙についての表示の普及」(51.7%)、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」(49.8%) などとなっている。

(図表 4-18)

図表 4-19 受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて

(性別・性／年代別・地域別 上位6項目)



受動喫煙防止のため大田区に望むことについて、上位6項目を性別で見ると「飲食店に対する喫煙場所の有無などの店頭表示義務の徹底」では男女ともに6割前半で大きな差異は見られない。「公衆喫煙所の設置」では男性（46.8%）、女性（31.5%）と、男性が女性を15.3ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「飲食店に対する喫煙場所の有無などの店頭表示義務の徹底」では男性70歳以上が72.6%と他の年代より高くなっている。「公衆喫煙所の設置」では男性30～50代が5割後半、男性70歳以上が4割後半と高くなっている。

地域別で見ると、「飲食店に対する喫煙場所の有無などの店頭表示義務の徹底」では全ての地域で6割台となっている。（図表4-19）